

令和2年度

教育委員会の事務の管理及び執行状況の点検及び評価報告書

伊那市教育委員会

教育委員会の事務の管理及び執行状況の点検及び評価について

- 伊那市教育委員会の事務の管理及び執行状況の点検及び評価（以下「点検・評価」という。）は、地方教育行政の組織及び運営に関する法律（昭和31年法律第162号）第26条の規定に基づき実施するものです。

（参 考）

地方教育行政の組織及び運営に関する法律（関係条文抜粋）

第26条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

- 点検・評価は、令和元年度伊那市教育委員会重点施策の達成状況を対象とします。
- 上記重点施策に関連する事務事業は、2～3ページの一覧表のとおりです。
- 自己評価については、概ね下記の基準によります。

評価	内 容
A	優れた取組が多く、十分成果が上がっている
B	優れた取組がいくつかあり、成果が上がっている
C	一定の成果は上がっているが課題もあり、改善の必要がある
D	成果が十分上がっておらず、改善の余地が多く、抜本的な見直しが必要である

- 「教育委員会評価委員」による点検・評価についての意見は、最終ページに記載しています。

令和元年度伊那市教育委員会重点施策に関連する事務事業一覧

No.	重点施策	事務事業名	評価	備考
第1節 地域への愛着と誇りを育む教育				
1-1：学校教育				
1	学校教育の充実 学校・家庭・地域の連携強化	総合的な学習	A	学校教育課
2		キャリア教育の推進	A	学校教育課
3		幼保小中の連携	B	学校教育課
4		読書活動の推進	B	学校教育課
5		学校備品整備・情報教育	A	学校教育課
6	きめ細やかな学びの支援	学力向上	B	学校教育課
7		特別支援教育	B	学校教育課
8		外国籍児童生徒の支援	B	学校教育課
9	安心安全な給食と食育の推進	給食運営・給食施設整備	B	学校教育課
10	学校施設の耐震化・長寿命化と適正配置	学校施設の耐震化・改修整備	A	学校教育課
1-2：教育連携				
11	高等学校との連携	高等学校振興	B	学校教育課
12		私立高等学校振興	B	学校教育課
13	大学との連携	信州大学・東京藝術大学との連携	B	学校教育課
1-3：心の教育				
14	不登校対策の推進	中間教室	B	学校教育課
15		不登校児童生徒支援ネットワーク	B	学校教育課
16	虐待防止対策の推進	子育て教育支援相談、家庭児童相談	B	学校教育課
17	いじめ防止対策の推進	子どもと親の相談員の配置	B	学校教育課
18		スクールカウンセラーの配置	B	学校教育課
1-4：青少年健全育成・家庭教育				
19	子どもの居場所と安心安全の確保	少年補導委員会・少年補導センター	B	生涯学習課
20		学童クラブ	B	生涯学習課
21	地域・関係機関との連携による家庭教育の充実	青少年育成対策	B	生涯学習課
22		成人式	B	生涯学習課
第2節 生涯にわたる学びの支援とスポーツの振興				
2-1：生涯学習				
23	生涯学習・社会教育の推進	市民大学・市民大学大学院	B	生涯学習課
24		桜大学	B	生涯学習課
25		長谷生涯学習講演会	C	生涯学習課
26		社会人権同和教育	B	生涯学習課
27		学校人権同和教育	B	学校教育課
28	公民館活動の推進	集会施設建設等補助	B	生涯学習課
29		公民館建設（施設管理）	B	生涯学習課
30		公民館共同事業	B	生涯学習課
31		公民館事業	B	生涯学習課
32	図書館の充実	蔵書管理	B	生涯学習課
33		図書館イベント	B	生涯学習課
34		図書館分館	B	生涯学習課

2-2: 文化・芸術				
35	文化芸術の振興と地域文化の育成	進徳館の日	B	生涯学習課
36	文化財の保存・継承・活用	史跡高遠城跡	B	生涯学習課
37		民俗資料館	A	生涯学習課
38		旧井澤家住宅	B	生涯学習課
39		民俗文化の伝承	B	生涯学習課
40	文化芸術施設の充実及び活用	創造館	B	生涯学習課
41		高遠町歴史博物館	B	生涯学習課
42		信州高遠美術館	B	生涯学習課

第1節 地域への愛着と誇りを育む教育

児童生徒らが自ら生きる力を育むために、「はじめに子どもありき」の教育理念のもと、郷土の教育資源を生かした食育やキャリア教育をはじめ、体験や対話を重視した人間性に満ちた教育により、心豊かな人づくりに取り組みます。また、豊かな自然や歴史文化に恵まれた郷土の魅力を学び、ふるさとに対する誇りや感謝の気持ちを育むとともに、郷土愛を受け継ぐ次の世代の人材育成に努めます。

1-1: 学校教育

教育理念「はじめに子どもありき」を具現化するため、「学校教育の充実、学校・家庭・地域の連携強化」、「きめ細かな学びの支援」、「安心安全な給食と食育の推進」、「学校施設の耐震化・長寿命化と適正配置」を図り、全ての教育活動を「子どもに発し、子どもに還る」ものとするよう努めます。

(1) 学校教育の充実、学校・家庭・地域の連携強化

事務事業	No.1	総合的な学習	R1 年度決算額	6,811 千円
事業の目的	子どもたちの生きる力、郷土を愛する心を育むため、地域の自然や歴史、文化を学習するなど、子どもの求めや願いを大切に伊那市らしい総合的な学習を推進します。			
事業内容	各学校が主体的に取り組む「体験学習」、「交流学习」、「体力づくり」など創造的な学習の支援			
達成状況	○全小中学校において、地域の特色を活かした総合的な学習を実施しました。 ○創造的活動推進事業交付金、信州型コミュニティ・スクール交付金を、全小中学校に交付しました。			
	区分	学校名	令和元年度主な取り組み	
	小学校	伊那	動物飼育（やぎ・羊他）、農作物栽培と調理、伝統文化の学習など	
		伊那東	稲・野菜栽培、地域文化学習、開校展販売、高齢者等との交流など	
		伊那北	稲・野菜栽培と調理、里山利用と整備活動、炭の製作、環境保全など	
		伊那西	稲・野菜・動物飼育、チョウ・野鳥観察、学校林活用学習など	
		富県	稲・小麦・野菜栽培、地域探検、花栽培、会社立ち上げ活動など	
		新山	地域・歴史・新山トンボ学習、白毛餅米栽培、新山まつり参加など	
		美篤	もち米・大豆・野菜栽培・調理、篤竹細工等の文化・地域学習など	
		手良	稲・大豆・野菜栽培・調理、手良っこ太鼓、サイフォン水路学習など	
		東春近	稲・野菜栽培、五平餅・ローメン作り、養蚕学習、りんご栽培など	
		西箕輪	稲、大豆加工品作り、養蚕学習、保・中・養護学校との交流など	
		西春近北	野菜・小麦栽培学習、地域太鼓学習・くぬぎ米作り、地域学習など	
		西春近南	稲・野菜栽培と調理、食農学習、エコツアー・ジオパーク学習など	
		高遠	稲・大豆・野菜栽培、キノコ・伝統芸能の学習、鶏飼育と観察など	
		高遠北	こんにゃく・野菜栽培、そば打ち、地域探検、音楽劇・太鼓など	
	長谷	稲・野菜栽培、孝行猿劇・養蚕学習、地域学習、ICT 学習など		
中学校	伊那	ふるさと伊那谷学（農業体験、職場体験、地域産業学習）など		
	東部	農業・産業学習、郷土食調査、仙台市立中との交流、日本食学習など		
	西箕輪	地域交流、保育園・伊那養護学校交流、職場体験、和太鼓演奏など		
	春富	キャリア教育、農業体験・職場体験、奉仕活動、環境教育学習など		
	高遠	森林学習、キャリア教育、観桜期プロジェクト、観桜期ボラ活動など		
長谷	中学生にできる地域おこし活動、歌舞伎、唐辛子栽培・ラー油など			
事業の課題及び方向性	【課題】総合的な学習の位置づけを常に明確にする必要があります。また、「体験学習」や「交流学习」を通して総合的に「生きる力」や「人間関係力」を養う必要があります。			

	【方向性】意欲に関わる学力の伸長を大切に考え、地域の自然や文化・伝統など体験を通して行なわれる総合的な学習を推進します。また、信州型コミュニティ・スクール事業を軸に取り組み、地域協同の開かれた学校づくりをさらに推進します。
自己評価	A

事務事業	No.2	キャリア教育の推進	R1 年度決算額	4,142 千円
事業の目的	子どもたちが社会的・職業的に自立し、社会の中で自分の役割を果たしながら、自分らしい生き方を実現する力を育むために、学校、家庭、地域、産業界、行政が協働してキャリア教育の推進に取り組みます。			
事業内容	○伊那市キャリア教育推進委員会の運営 ○職場体験学習の実施 ○伊那市中学生キャリアフェスの実施 ○キャリア教育産学官交流会ほか郷土愛プロジェクト事業への参画			
達成状況	○市内中学生を対象に学校、事業所と連携を図りながら職場体験学習を実施しました。 <ul style="list-style-type: none"> ・実施生徒数 640 人 平均実施日数 3 日 ・受入事業所数 161 か所 (H28:192 か所、H29:184 か所、H30:177 か所) ○中学生が新たな出会いや発見を体感しながら、地域の良さを改めて実感し、未来を考える機会として、伊那市中学生キャリアフェスを開催しました。 <ul style="list-style-type: none"> ・参加生徒数 市内全6 中学校2 年生 637 人 ・出展ブース数 105 ○「伊那北小ハローワーク」や富県小学校、手良小学校のPTA主体のキャリア教育関連行事などの取組により、小学生が働くことの楽しさややりがいを感じ取り、様々な職業の特色を知る機会となりました。 ○上伊那の産学官組織が協働しながら、次世代育成や地域づくりを実践する郷土愛プロジェクトの事業に参画しました。 <ul style="list-style-type: none"> ・キャリア教育産学官交流会 参加者 296 人 (H28:274 人、H29:255 人、H30:292 人) ・伊那中学校1 年生 上伊那市町村フィールドワーク ほか 			
事業の課題及び方向性	【課題】職場体験学習の実施に係る事務手続き等の流れは定着してきましたが、生徒・学校と受入事業所との目的、理念の共有をさらに図っていく必要があります。 【方向性】事前事後学習等を通じて生徒一人一人に目的意識を持たせるための支援を行うとともに、地域で子どもを育てるという伊那市キャリア教育憲章のビジョンを関係者間で共有する取組を推進します。また、キャリア教育の一貫性、継続性を担保するため、小学校、高校等との連携を図ります。			
自己評価	A			



キャリア教育 (伊那市中学生キャリアフェス)

事務事業	No.3	幼保小中の連携	R1 年度決算額	1千円
事業の目的	<p>保育園・幼稚園と小学校双方が幼児期から学童初期における子どもの発達と活動（遊びと教育）についての理解を深め、育ちや学ぶ意欲がスムーズに引き継がれ、健やかな成長を支援できるように幼児教育と小学校教育の双方の質の向上を図るとともに、中一ギャップと言われる中学校進学時の不登校の増加など、学校不適應への適切な対応を図ります。</p> <p>子どもが抱える課題などについて早い時期から情報の共有を図り、早期に適切な支援を行い、不適應、不登校等への早期対応、未然防止を図ります。</p>			
事業内容	<p>○幼保小連絡会、小中連絡会の開催 ○学校行事等を通じた児童生徒の交流</p> <p>○保育士、小・中学校教員の相互体験 ○幼保小・小中連携推進委員会開催</p> <p>○幼保小連携プログラム「伊那市版幼保小連携プログラム」の実践</p>			
達成状況	<p>○保育士・小学校教職員の相互1日体験を実施、子どもの実態を体験的に感得することで双方の意識変革を促す取組になっています。</p> <p>○「幼保小連携推進委員会」において作成した伊那市版「幼保小連携プログラム」に基づく、地域の特性を生かしたアプローチ・スタートカリキュラムの作成、実践により、保育園から学校へのスムーズな接続が図られました。</p> <p>○支援を要する子どもを対象に「成長ダイアリー」を作成し、幼・保・小・中・高の情報共有を図っています。</p> <p>○一日入学、運動会、音楽会、文化祭など学校行事への参加、クラス交流、中学校教職員の小学校での出前授業等、入学、進学への期待感を育みました。</p>			
事業の課題及び方向性	<p>【課題】小1プロブレム、中1ギャップと言われる進学時の学校不適應への対応が求められています。</p> <p>【方向性】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒、教職員間の相互交流などを通じ心的距離の縮小を図ります。 ・伊那市版「幼保小連携プログラム」の内容について、教職員、保育士が理解を深める合同研修会を実施するとともに、カリキュラムの実践、検証、見直しを進めます。 			
自己評価	B			

事務事業	No.4	読書活動の推進	R1 年度決算額	48,378千円
事業の目的	<p>心豊かな人間性と自ら学ぶ学習意欲を育むため、学校図書館の充実を図るとともに、読書活動を推進します。</p>			
事業内容	<p>○学校司書の配置</p> <p>○読み聞かせボランティアの活用及び充実</p> <p>○学校図書館システム活用</p>			
達成状況	<p>○「朝読書」などの全校一斉読書、地域のボランティア等による読み聞かせを全小中学校で行っています。</p> <p>○全校に配置した学校司書（17人うち2校勤務4人）が、読書活動や図書館活用の支援、読書環境の充実に力を発揮しています。</p> <p>○図書館システムを全小中学校に導入し、活用しました。</p> <p>【参考】図書館の本の1人当たり平均貸出冊数</p> <p>小学校 117冊（H28:109冊、H29:114冊、H30:105冊）</p> <p>中学校 31冊（H28:29冊、H29:29冊、H30:23冊）</p>			
事業の課題及び方向性	<p>【課題】読書習慣の定着、自主的、主体的学習活動の支援、情報の収集、選択、活用能力の育成が求められています。また図書館システムのスムーズな本格稼働に係る研究や検討を行います。</p> <p>【方向性】引き続き学校図書館の蔵書の充実を図るとともに、図書館を活かし子どもの読書活動や調べ学習を支える学校司書を配置します。</p> <p>読み聞かせボランティアの活用を図り、読書活動を推進します。</p> <p>図書館システムを有効活用した読書活動及び調べ学習を充実していきます。</p>			
自己評価	B			

事務事業	No.5	学校備品整備・情報教育	R1 年度決算額	169,421 千円
事業の目的	情報教育を含む教育環境の充実を図るため、教材備品及び情報機器の整備を推進します。			
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> ○一般教材・理科教材備品の整備 ○タブレット端末、校務用パソコン、電子黒板セット等の環境整備 ○「学校教育の情報化ビジョン」実現のための取り組み 			
達成状況	<ul style="list-style-type: none"> ○必要な教材備品及び情報機器を整備しました。 ○伊那市小中学校情報委員会を開催し、テーマ別グループによる活動報告を行いました。 ○令和元年度は、タブレット 1,997 台、電子黒板セットを 107 台導入しました。 ○ICT の取り組みが評価され日本 ICT 教育アワードの「経済産業大臣賞」を受賞いたしました。 <p>【参考】タブレット端末の総数 2,244 台（リース継続分+寄付分+レンタル分） 電子黒板及び周辺機器整備台数 272 セット（21 校） 小中学校の無線 LAN 環境の整備率=100%</p>			
事業の課題及び方向性	<p>【課題】GIGA スクール構想による整備により一人一台のタブレット整備がされます。これまで以上に、子供たちの学びをより充実させるべく、先生の活用意識やスキルアップを一層進めることが重要です。</p> <p>【方向性】学校からの要望に基づき、教材備品や情報機器（タブレット他）を整備するとともに積極的に研修会を開催して先生方の指導力向上を目指します。また、情報セキュリティ意識の向上と正しい利用のための情報モラル教育を進めます。</p>			
自己評価	A			

(2) きめ細やかな学びの支援

事務事業	No.6	学力向上	R1 年度決算額	5,078 千円
事業の目的	<p>自ら学ぶ意欲や学習習慣の形成を図るため、学力検査の結果などを基に授業改善などに努め、児童・生徒一人一人の実態に応じた学習指導を行います。</p> <p>また、小学校と中学校の放課後等に行われる自発的な学習活動を支援します。</p>			
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> ○標準学力検査（NRT）の実施 <ul style="list-style-type: none"> ・小学4年生（587人）算数・小学5年生（595人）国語、算数、 ・中学2年生（608人）国語、数学、英語 ○学力検査結果の分析と授業改善 ○中学生の放課後学習支援事業の実施 ○小学生の学力向上支援（授業中、業間、放課後）事業の実施 ○読み書きにつまずきのある児童の早期発見・支援事業の実施 			
達成状況	<ul style="list-style-type: none"> ○伊那市が標準学力検査（NRT）を始めて16年が経過し、小中学校共に基礎・基本の学力の定着がみられます。各校においては、検査結果の分析を基に個別指導、授業改善に取り組むとともに、学力向上と関係が深い「早寝、早起き、朝ごはん、朝読書」など生活習慣の定着を進めました。 ○教育長、指導主事、学校長で構成する「学力向上検討委員会」を設置し、検査結果の検討、分析を行うとともに、「学力向上のための実践事例発表会」を開催し、検査結果を基にした授業改善の発表と模擬授業を行いました。 ○中学校の放課後学習支援員を募集、委嘱し、中学生の学力向上を支援しました。 受講生徒数 346 人（H28: 552 人、H29: 561 人、H30: 402 人） 支援員数 60 人（H28: 52 人、H29: 59 人、H30: 51 人） 			

	<p>○小学校の学習支援員による学力向上支援事業を行いました。 受講児童数 1119 人 (H28: 995 人、H29: 926 人、H30: 1130 人) 支援員数 53 人 (H28: 58 人、H29: 58 人、H30: 59 人)</p> <p>○平成 28 年度より全小学校の 1 年生に MIM(多層指導モデル)の導入をしており、読み書きについての研修を実施しました。</p>
事業の課題及び方向性	<p>【課題】 令和元年度に市が実施した標準学力検査では、中学 2 年生の英語において若干の課題が見られますが、小学校 4 年生の算数、5 年生の国語・算数、中学校 2 年生の国語・算数についてはおおむね全国標準の範囲内にあります。</p> <p>伊那市の児童生徒の学年別傾向として、小学校 4 年生では文学的文章の読み取り、5 年生では算数の分配法則の理解、中学校 2 年生の英語では聞き取りの力に課題が見られました。</p> <p>【方向性】 市校長教頭会の学力向上検討委員会を中心に課題の改善について市内 21 小中学校への提案を行っていきます。また、学力向上支援ボランティアの活用を引き続き行い学力支援事業に取り組みます。</p>
自己評価	B



放課後学力向上支援事業から (西箕輪中学校)

事務事業	No.7	特別支援教育	R1 年度決算額	70,048 千円
事業の目的	知的障害、肢体不自由、病弱・身体虚弱、弱視、難聴、言語障害、情緒障害等心身に障害のある児童生徒一人一人の教育的ニーズを把握し、その持てる力を高め、生活や学習上の困難を改善又は克服するため、適切な指導及び必要な支援を行います。			
事業内容	○ 特別支援教育支援介助員・講師の配置 ○ 伊那中央病院院内学級の設置、運営 ○ 「ことばの教室 (伊那小学校内)」「まなびの教室 (伊那北小学校・東部中学校内)」の設置、運営 ○ 特別支援教育就学奨励費の支給			
達成状況	○ 特別支援学級に在籍する児童生徒の増加に対応するため、特別支援教育支援員を市費で配置しました。			

	【参考】特別支援学級在籍児童生徒数・クラス数・支援員数					
		小学校		中学校		支援員数 内()講師数
		児童数	クラス数	生徒数	クラス数	
	平成28年度	229	44	91	18	32(1)
	平成29年度	225	44	112	20	37(1)
	平成30年度	259	48	120	21	41(1)
	令和元年度	249	45	125	22	46(1)
	特別支援教育就学奨励費の支給 238人 (H28:201人、H29:208人、H30:236人) ○副学籍制度による、特別支援学校に就学する児童生徒と居住する地域の小中学校の児童生徒の交流及び共同学習の拡充に努めました。(副学籍児童生徒 52名)					
事業の課題及び方向性	【課題】特別支援学級に在籍している児童生徒数が増加するとともに、自・情障学級では、学年が上がっても在籍児童数が減少しない傾向にあります。また、通常学級において学習障害(LD)、注意欠陥多動性障害(ADHD)、広汎性発達障害等、学習や生活の面で特別な教育的支援を必要とする児童生徒が増加しており、支援体制の充実が求められています。					
	【方向性】関係機関との連携を図り、子どもの教育的ニーズに最も的確に応える支援を提供するとともに、ノーマライゼーションの観点からも、自・情障学級から通常学級への転籍に向けた支援のあり方を検討する必要があります。 また、児童生徒、保護者等が障害への理解を深めるとともに、特別支援学校に通う子どもたちが、友だちとの繋がりや地域での存在感を継続できるよう副学籍制度の充実に努めます。					
自己評価	B					

事務事業	No.8	外国籍児童生徒の支援	R1年度決算額	9,161千円
事業の目的	通訳、相談、学習支援等の支援体制を整備し、外国籍児童生徒の学校生活への適応、学力の定着を図る。			
事業内容	○日本語教室の設置、運営(伊那東小、伊那北小、東部中) ○外国語児童生徒支援相談員の設置(伊那北小、東部中) ・児童生徒の学習及び学校生活の支援、家庭への便りの作成、家庭との連絡、通訳等 ○発達障害等特別支援を必要とする外国籍児童の支援介助、家庭と学校との連絡、通訳等に当たる支援員の配置(伊那東小)			
達成状況	外国籍児童生徒に対する、通訳、相談、学習等の支援を継続して行いました。 【参考】外国籍児童生徒数			
		伊那東小学校	伊那北小学校	東部中学校
	平成28年度	34	31	32
	平成29年度	33	39	36
	平成30年度	31	45	34
	令和元年度	31	48	31
	その他 小学校5校15人、中学校3校6人			
事業の課題及び方向性	【課題】障害があり特別な支援を必要とする外国籍児童への対応や、多様な言語への対応も必要となっています。 【方向性】日本語教室の設置、運営と外国語児童生徒支援相談員等の適切な配置を引き続き行います。			
自己評価	B			

(3)安心安全な給食と食育の推進

事務事業	No.9	給食運営・給食施設整備	R1 年度決算額	610,119 千円
事業の目的	児童生徒が食事に関する正しい理解と望ましい食習慣を身につけるため、栄養バランスのとれた給食を提供するとともに、食育を推進します。			
事業内容	○給食運営 ○栄養士、給食技師の配置 ○伊那市学校給食食農体験事業「暮らしのなかの食」への取り組み			
達成状況	給食技師の臨時職員化、食材の共同購入により、経費の縮減を図るとともに、栄養士を各学校及び調理場に配置することにより、食育の推進を図り、地産地消の安全安心な美味しい給食を提供しました。(令和元年度県内産食材利用率 約45.8%) 【参考】 給食提供数 1,229,424食 (H28:1,314,254食、H29:1,294,995食、H30:1,257,241食) 給食技師数 73人 (H28:72人、H29:75人、H30:77人) 給食1食あたりの経費 193円 (H28:185円、H29:183円、H30:187円) 伊那市学校給食施設整備計画に沿って給食施設の整備を行いました。 ・美篤小学校給食調理場の解体 29,991千円 ・東春近小学校給食調理場の建設 319,055千円 伊那市学校給食食農体験事業「暮らしのなかの食」への取り組みを市内全校で行いました。 ・実践発表会及び講演会 令和2年1月21日 実践発表 保育園2園、小学校2校、中学校1校 5年間の活動を振り返って 笠原教育長 講演会 講師 元東京大学講師 内山 節先生 演題「〈いのち〉の結びつきを再認識する」 ・活動事業費(食育に係る各学校への配当等) 2,074千円			
事業の課題及び方向性	【課題】 子どもに安全安心、そして美味しい給食を提供するとともに、子どもの食に対する理解を深める必要があります。 【方向性】 各学校と連携を取りながら、本格的な農業体験に基づく作物の育成、食材の生産及び食に対する「いただきます」「もったいない」の感性を育む食農体験事業「暮らしのなかの食」の取り組みを小中学校21校で継続します。また、人的配置、食材調達等効率的な給食運営を図るとともに、計画的に給食施設の整備を行います。			
自己評価	B			



田植えの様子



豆腐づくり

(4) 学校施設の耐震化・長寿命化と適正配置

事務事業	No.10	学校施設の耐震化・改修整備	R1 年度決算額	1,104,647 千円
事業の目的	<p>○児童生徒の安全確保と地域の防災拠点の整備を図るため、小中学校施設の非構造部材耐震化とトイレの改修を行います。</p> <p>○施設の維持管理を行うとともに、教育環境の改善を図るため、校舎内外の大規模改修整備を行います。</p>			
事業内容	<p>○耐震化工事 平成 27 年度より、各校体育館の非構造部材（天井材・窓ガラス・照明器具等）の耐震化を進めています。</p> <p>○改修工事 耐震化工事と併せて屋根・外壁の改修を行うとともに、トイレの洋式化等を含めトイレの改修を進めています。</p>			
達成状況	<p>○非構造部材耐震化他工事の実施</p> <p>(1) 富県小学校体育館（非構造部材耐震化・屋根・LED 照明改修）</p> <p>(2) 西箕輪小学校体育館（非構造部材耐震化・屋根・LED 照明改修）</p> <p>(3) 西春近南小学校体育館（非構造部材耐震化・屋根・LED 照明改修）</p> <p>(4) 長谷小学校体育館（非構造部材耐震化・屋根・LED 照明改修）</p> <p>※ 小中学校の体育館非構造部材耐震化率 令和元年度末：84.0%（25 棟中 21 棟）</p> <p>○トイレ改修工事の実施</p> <p>(1) 高遠北小学校（管理教室棟・特別教室棟・体育館・外便所 計 8 箇所）</p> <p>○大規模改修工事等</p> <p>(1) 市内全小中学校エアコン設置工事（機械設備・電機・受電設備）</p> <p>(2) 新山小学校外階段屋根改修</p> <p>(3) 伊那小学校玄関ポーチ屋根改修</p> <p>(4) 高遠小・伊那中学校ペレットストーブ設置（高遠小 7 基、伊那中 15 基 計 22 基）</p>			
事業の課題及び方向性	<p>【課題】 国の交付金事業が未採択となるなど、今後の先行きが不安視されます。</p> <p>【方向性】 令和 2 年度中に「学校施設長寿命化計画（個別計画）」を策定し、国などの有利な財源を活用のうえ、体育館の非構造部材耐震化工事を推進していきます。</p>			
自己評価	A			

1-2：教育連携

地域の高等学校と連携を図り、社会変化に対応した教育内容の充実と魅力ある高等教育について働きかけるほか、引き続き過疎地域・私立高等学校の振興のため支援に取り組みます。また、大学や短期大学との連携・交流により、高度で専門性のある教育を受ける環境を創出します。

(1) 高等学校との連携

事務事業	No.1 1	高等学校振興	R1 年度決算額	3,000 千円															
事業の目的	過疎地域高等学校の振興を図るため、高遠高等学校振興会の活動を支援します。																		
事業内容	高遠高等学校振興会活動の支援																		
達成状況	<p>○高遠高等学校振興会へ負担金を支出し振興会事業を支援しました。</p> <p>○平成 23 年度から振興会で行う通学費補助事業の経費を市で負担しています。</p> <p>○平成 7 年にコース制導入後、文科省の学力向上実践研究校としての実践研究（平成 21 年度から 3 年間）、長野大学、日本福祉大学、東京藝術大学など高大連携の拡充を図るとともに、平成 24 年度、高遠高等学校の将来像検討委員会を設置し、教育内容の改善、充実に努めています。また、伊澤修二記念音楽祭ほか、地域や保育園、小中学校と連携した取組を進めています。</p> <p>○入学者数の推移</p> <table border="1" style="margin-left: 20px;"> <thead> <tr> <th></th> <th>平成 28 年度</th> <th>平成 29 年度</th> <th>平成 30 年度</th> <th>令和元年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>入学者数</td> <td>110</td> <td>109</td> <td>105</td> <td>120</td> </tr> <tr> <td>定員</td> <td>120</td> <td>120</td> <td>120</td> <td>120</td> </tr> </tbody> </table> <p>○バス通学費補助 149 人、1,600 千円（H28:142 人、1,600 千円、H29:157 人、1,600 千円、H30:128 人、1,600 千円）</p>					平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	令和元年度	入学者数	110	109	105	120	定員	120	120	120	120
	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	令和元年度															
入学者数	110	109	105	120															
定員	120	120	120	120															
事業の課題及び方向性	<p>【課題】定員確保、高等学校再編後も存続可能な将来像構築が求められています。</p> <p>【方向性】高遠高等学校は、コース制を導入する等、特色ある学校運営を行っています。地域の魅力ある学校として発展していくためにも、「高遠学園構想」に基づく特色ある教育の拡充、高遠中学校等との連携及び定員確保へ向けた遠距離通学者の利便性を高める支援が引き続き必要です。</p>																		
自己評価	B																		

事務事業	No.1 2	私立高等学校振興	R1 年度決算額	987 千円
事業の目的	地域の私立高等学校の振興を図るため、私立高等学校の運営を支援します。			
事業内容	伊那西高等学校に対する支援 ・職員の待遇改善・福利厚生、保護者の負担軽減等の支援			
達成状況	<p>同校は、市内の生徒を多数受け入れており、地域の高等学校教育に大きな役割を果たし、地域に根ざした高等学校として定着しています。</p> <p>【参考】定額補助 1 校当たり 600,000 円（H22 年度から 600,000 円） 生徒割補助 1 人当たり 2,600 円（H22 年度から 2,600 円） 伊那市に住所を有する生徒数 149 人（H28:210 人、H29:192 人、H30:176 人） 全校生徒数 435 人（H28:527 人、H29:507 人、H30:460 人）</p>			
事業の課題及び方向性	<p>【課題】昭和 63 年から普通コース、進学コースの 2 コース制を導入、地域中学校との連携を重視し、受験機会の複数化、特色ある教育の充実及び定員確保に引き続き努めていきます。</p> <p>【方向性】地域の高等学校教育に果たす役割や学校運営を取り巻く厳しい状況を考慮し、学校運営費補助を継続して行います。</p>			
自己評価	B			

(2) 大学との連携

事務事業	No.1 3	信州大学・東京藝術大学との連携	R1 年度決算額	0 千円
事業の目的	高度で専門性のある教育を受ける環境を創出します。			
事業内容	信州大学との地域連携、交流の続く東京藝術大学との連携強化			
達成状況	<ul style="list-style-type: none"> ○小中学校での信州大学の教員による作物（唐辛子など）の栽培指導 ○信州大学生による中学校学力支援ボランティア登録 7 人（H28:9 人、H29:10 人、H30:3 人） ○信州大学農学部 of 教職免許取得学生の研修受入れ ○信州大学生のボランティアによる通学合宿・おいで塾への協力 ○東京藝術大学学生による吹奏楽及び合唱指導 <ul style="list-style-type: none"> ・市内中学校・高等学校の吹奏楽、合唱部員等を対象に、東京藝術大学学生を講師として行われる講習会 			
事業の課題及び方向性	<p>【課題】連携を通じ、専門性のある教育を受ける環境の創出とともに、信州大学卒業生の伊那市内企業への就職、市内での就農につながる取り組みが求められています。</p> <p>【方向性】様々な機会を通じ、信州大学・東京藝術大学関係者との意見交換を行い、互恵関係を築く取り組みにチャレンジします。また、長野県工科短期大学校（上田市）に次ぐ県内 2 番目の工科短大として、平成 28 年に開校した南信工科短期大学校との連携により、これからの長野県の産業を支えていく「ものづくりのスペシャリスト」の育成ができないか連携を模索していきます。</p>			
自己評価	B			



東京藝術大学の学生から吹奏楽指導を受ける中学生

1-3: 心の教育

小中学校における心の問題や不登校、いじめ、虐待問題など様々な悩みを抱える児童生徒に対して、各種相談やきめ細かな支援を行うため、学校・家庭・地域・関係機関の連携強化を図るとともに、良好な環境の中で子育てができるよう家族全体を支援します。

(1) 不登校対策の推進

事務事業	No.14	中間教室	R1 年度決算額	3,805 千円
事業の目的	不登校の児童生徒の居場所を確保し、学校復帰へ向け支援、相談及び学習指導を行います。			
事業内容	中間教室の設置 ・適応指導員による相談支援、体験活動、集団活動、学習指導等 【小学部】 開設：毎週月～金曜日、時間：9:00～15:30、会場：やまびこ学級1階 【中学部】 開設：毎週月～金曜日、時間：9:00～16:00、会場：やまびこ学級2階			
達成状況	○中間教室通室児童生徒のうち小学生の50.0%（2人）、中学生の50.0%（5人）が進学又は学校へ復帰しました。 【参考】 通室者数 小学部 4人（H28:6人、H29:8人、H30:8人） 中学部 10人（H28:7人、H29:10人、H30:13人） 通室割合（通室児童生徒数／不登校児童生徒数） 小学部 13.8%（H28:60.0%、H29:57.1%、H30:32.0%） 中学部 18.2%（H28:17.0%、H29:18.9%、H30:23.2%）			
事業の課題及び方向性	【課題】 長期化した不登校児童生徒への支援が課題であり、未然防止、早期発見、早期対応が求められています。 【方向性】 学校、子ども相談室、医療機関等との連携を図りながら、児童生徒、家庭への早期対応、支援に努めます。			
自己評価	B			

☆ 春富中学校人権宣言

2007年1月19日 春富中学校生徒会

- 第1条 私たちは、いかなる時もお互いに平等であり、楽しく、安心して学校生活を送っていく権利をもつ。
- 第2条 安心して生活できる学校とは、命を大切にし、学校全体に落ち着きがあり、友達を信頼でき、行きたいと思える学校である。そのような学校にするため、私たちは努力しなければならない。
- 第3条 私たちは、個人の性格や容姿、人柄や考え方、身体的な特徴、能力や性別、年齢差などといった個性の違いを理由とした、あらゆる差別や、中傷、いじめなどの行為をしてはならないし、こういった行為を許してはならない。
- 第4条 私たちは学校生活において自分の意見や考えを表現する自由がある。
- 第5条 私たちは、差別されたり、いじめられたり、中傷されたりしたとき、クラスや学年・生徒会、そして親や先生、友達に助けを求めることができる。
- 第6条 差別されたり、いじめられたり、中傷されたりしている人を守るため私たちは立ち上がる義務がある。
- 第7条 私たちは、春富中からいじめや差別をなくしていくために、相手の気持ちを考え、思いやりを持って、行動できるよう努力する。

☆ 西箕輪中学校人権宣言

2010年1月21日 西箕輪中学校生徒会

- 第1条 私たちは、いじめや差別についてよく理解するよう努力し、周りにあるいじめに気付けるようになります。
- 第2条 私たちは、一人ひとりの個性を認め、いじめや差別を絶対に許しません。
- 第3条 私たちは、毎日明るくあいさつをし、みんなが声がけできる環境をつくります。
- 第4条 私たちは、常に相手の気持ちを考えて行動し、温かい言葉で話します。
- 第5条 私たちは、どんな時でも、助け合い、支え合い、励まし合う友達をつくります。

事務事業	No.1 5	不登校児童生徒支援ネットワーク	R1 年度決算額	26,278 千円
事業の目的	指導主事、学校、子ども相談室、中間教室、福祉、医療、民間支援団体等、関係機関が連携し不登校児童生徒の早期発見、早期対応、支援を行います。			
事業内容	○指導主事、学校、中間教室、子ども相談室等が連携し不登校児童生徒の支援 ○中学校への教員補助員配置 ○上伊那子どもサポートセンターの運営費支援			
達成状況	○近年、中学校では増加傾向に歯止めがかかり、一定の成果が表れています。 ○不登校・不適應の傾向を持つ生徒の生活指導や教科指導を行うため、中学校への市費講師を配置しました。(5中学校へ10人) 【参考】 不登校児童生徒数・割合 () は%			
		平成28年度	平成29年度	平成30年度
	小学校	10人 (0.26)	14人 (0.37)	25人 (0.69)
	中学校	41人 (1.99)	53人 (2.60)	56人 (2.80)
	合計	51人 (0.86)	67人 (1.16)	81人 (1.43)
事業の課題及び方向性	【課題】 早期発見、早期対応等により、不登校を長期化させない対応が必要です。 【方向性】 スクールカウンセラー、子どもと親の相談員等の相談・支援体制の充実を図るとともに、関係機関と連携し対応します。また、児童生徒理解に基づく不登校児童生徒の早期発見・早期対応等、新たな不登校を出さないための取組を進めます。			
自己評価	B			

(2) 虐待防止対策の推進

事務事業	No.1 6	子育て教育支援相談、家庭児童相談	R1 年度決算額	33,565 千円
事業の目的	親の養育力と家族機能を高め、子どもが自立へ向けての生きる力を培うため、家族、地域、関係機関が連携し、乳幼児期から思春期まで一貫した相談支援を行います。			
事業内容	○関係機関との連携及び支援 (保健・医療・福祉・教育・警察・司法等) ○要保護児童生徒 (虐待を受けている児童、非行、虞犯等) の保護 ○個別ケース支援会議による関係機関の役割分担と連携 ○就学相談 ○指定相談支援事業所の運営			
達成状況	○子ども相談室を中心に、関係機関と連携して多数の相談や案件に対応しました。 ○親の養育力の向上を図るためのペアレントトレーニングを実施しました。 ○児童虐待へ対応を強化するため、関係機関の研修を実施しました。また、個別ケース支援会議を開催し通告後の子どもの安全を守るための支援を強化しました。 【参考】 相談・支援数 4,965 件 (H28 : 6,018 件 H29 : 4,978 件 H30 : 5,012 件) 児童虐待通告件数 64 件 122 人 (H28 : 67 件 122 人 H29 : 53 件 109 人 H30 : 77 件 162 人) 個別ケース支援会議 327 回 (H28 : 212 回 H29 : 249 回 H30 : 252 回) 教育支援委員会に諮った幼児児童生徒数 112 人 (H28 : 114 人 H29 : 132 人 H30 : 122 人) サービス等利用計画作成数 : 51 人			
事業の課題及び方向性	【課題】 相談件数が増加するとともに、相談内容は多様化し、緊急性が増しています。そこで、相談に適切かつ迅速に対応するため、専門職を配置するとともに、児童福祉法、障害者自立支援法の改正に伴い、小鳩園の相談支援部門と子ども相談室の機能の一本化を図ることにより、ライフステージに応じた様々な子どもの問題に対応できるようになりました。しかしながら、全体の相談件数が多いことから、個別のケ			

	<p>ースについて、十分対応できていない状況にあります。また、児童虐待については、困難な事例も多く、幅広い見識や専門性の高い対応が求められています。</p> <p>【方向性】 今後は問題が深刻化する前に対応するため、関係機関との連携体制の更なる充実と、早期支援等の防止施策や子どもの健やかな育ちを阻む種々の根本要因に対応する施策の検討が求められます。</p>
自己評価	B

(3)いじめ防止対策の推進

事務事業	No.17	子どもと親の相談員の配置	R1 年度決算額	12,022 千円
事業の目的	<p>児童生徒やその保護者が抱える不安や、悩みの相談に当たる相談員を小中学校に配置し、児童生徒が安心して充実した学校生活を送ることができるよう支援します。必要に応じて子ども相談室、中間教室、スクールカウンセラー等と連携し、不登校、不適応傾向の児童生徒とその保護者の支援を行います。</p>			
事業内容	<p>○ 児童の話し相手・悩み相談 ○ 不登校傾向の児童の早期発見・早期対応（家庭訪問含む） ○ 不登校児童及び不登校児童をかかえる家庭への対応等 ○ 市費相談員の配置 相談員 12 人を 13 校へ配置（2 校兼務 1 人）</p>			
達成状況	<p>小学校における延べ相談件数 5,943 件 (H28:5,788 件、H29:5,807 件、H30:7,131 件) 中学校における延べ相談件数 4,798 件 (H28:5,012 件、H29:5,214 件、H30:3,570 件)</p>			
事業の課題及び方向性	<p>【課題】 不登校やいじめに発展する前の早期対応が大事であり、不適応児童生徒やその保護者に対する、相談支援体制の一層の充実が求められています。</p> <p>【方向性】 必要に応じ専門機関と連携を図り適時の支援ができるよう、相談体制の充実を図ります。</p>			
自己評価	B			

事務事業	No.18	スクールカウンセラーの配置	R1 年度決算額	2,170 千円
事業の目的	<p>児童生徒、保護者及び教職員等に対し、心理的側面から専門的援助を行い、教育相談体制の充実を図ります。</p>			
事業内容	<p>スクールカウンセラーの配置 全小中学校 ・県費配置 4 人に加え市費による配置時間の上乗せを行い、適時の相談支援に努める。</p>			
達成状況	<p>県から配当された相談時間では十分な対応ができないため、市費で上乗せし対応しました。</p> <p>【参考】 相談件数 小学校延べ514件 (H28:659件、H29:318件、H30:533件) 中学校延べ490件 (H28:389件、H29:394件、H30:556件) 相談時間 県費 1,042時間 (H28:733時間、H29:993時間、H30:1,299時間) 市費 452時間 (H28:294時間、H29:498時間、H30:192時間)</p>			
事業の課題及び方向性	<p>【課題】 不登校等、児童生徒やその保護者への早期対応が求められています、十分な人的配置がされているとは言えない状況にあります。</p> <p>【方向性】 県の配当時間を増やすよう働きかけるとともに、市としても必要な時間について対応していきます。</p>			
自己評価	B			

1-4：青少年健全育成・家庭教育

青少年の健全育成に向けて、安心安全を踏まえた学童クラブの施設整備に努め、共働き世帯を支援するとともに、地域で青少年を育てる環境づくりを進め、あわせて学校、行政、地域一体となった家庭教育の充実施策に取り組めます。

(1) 子どもの居場所と安心安全の確保

事務事業	No.19	少年補導委員会・少年補導センター	R1 年度決算額	860 千円
事業の目的	青少年の健全育成と非行防止を図るため、関係団体と連携を図り、街頭補導などを実施します。			
事業内容	少年補導センター及び補導委員の配置 ・少年補導センターの運営 ・補導委員は、55 人を 11 班に編成し、毎週土曜日と第 3 日曜日に街頭補導を実施するとともに、学校の長期休暇中は特別街頭補導を実施（補導日数 77 日） ・補導の手引きの作成			
達成状況	街頭補導による指導件数は減少傾向にあり、補導活動が非行防止の一助となっています。この指導件数の減少を踏まえ、指導方針について検討を行いました。 【参考】 補導活動延べ人員 261 人（H29:271 人、H30:276 人） 声かけ件数 55 件（H29:315 件、H30:196 件）			
事業の課題及び方向性	【課題】 特にソーシャルメディアに関連し、子どもを非行へ誘惑する要因が増えるとともに、子どもの規範意識が薄くなっています。 【方向性】 少年を取り巻く環境は多様化しており、少年の健全育成を図るため、引き続き補導委員会を中心に地域が子どもを見守る体制づくりを進めます。			
自己評価	B			

事務事業	No.20	学童クラブ	R1 年度決算額	98,173 千円
事業の目的	下校後、保護者が就労などにより不在のため、適切な保護が受けられない児童の保護及び健全育成を図ります。			
事業内容	学童クラブの設置 伊那小、伊那東小、伊那北小、伊那西小、富県小、新山小、美篤小、手良小、東春近小、西箕輪小、西春近北小、西春近南小、高遠小、高遠北小、長谷小の 15 校に開所			
達成状況	入所者が多い伊那小・伊那東小・伊那北小は 3 クラブ、美篤小・東春近小・西箕輪小学童クラブは 2 クラブ体制で対応しています。 伊那北小学童クラブ「子どもの居場所」木質空間整備工事 5,768 千円 高遠小学童クラブほか整備工事 22,064 千円 【参考】 学童クラブ 24 箇所（H29:22 箇所、H30:23 箇所） 入所者数 675 人（H28:582 人、H29:621 人、H30:631 人） クラブ設置小学校数／小学校数 100%（H29:100%、H30:100%） 入所者数／児童数 18.9%（H29:17.0%、H30:17.3%）			
事業の課題及び方向性	【課題】 保護者の就労支援や児童の健全育成のためニーズが高まっています。 【方向性】 施設の老朽化・狭隘施設の整備、開所日数の拡充、支援員の確保など学校や地域等と連携を図りながら課題を解決し、事業の充実を進めます。			
自己評価	B			



学童クラブでの様子

(2) 地域・関係機関との連携による家庭教育の充実

事務事業	No.2 1	青少年育成対策	R1 年度決算額	2,678 千円
事業の目的	<p>青少年の健全育成事業を推進するため、各地区 34 子ども会・育成会が行う各種事業を支援します。</p>			
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> ○地区における青少年の健全育成及び家庭教育推進活動 ○子どもの安全、有害環境の排除 ○よりよい教育環境推進協議会などへ参画 ○わんぱく広場の開催 ○情報紙「えがお」の発行 			
達成状況	<p>子どもにかかわる組織として地域に定着しており、各地域の実情に応じた活動を実施しています。</p> <p>○令和元年度各地区育成会実施事業</p> <p>有害環境チェック活動（7, 2月）、「信州あいさつ運動」への取組、魚つかみ大会、飯盒炊飯・キャンプ、どんど焼き、子ども神輿、天神様、まんど作り、しめ縄作り、子ども球技大会、夏祭り・花火大会、その他に子ども映画会、クリスマス会、資源回収、朝の清掃等</p>			
事業の課題及び方向性	<p>【課題】 地域全体で子どもを育てるという環境整備が求められています。</p> <p>【方向性】 子ども会・育成会は、地区の青少年健全育成の中心として大きな役割を担っています。しかし、地区によっては、過疎化、高齢化による組織的な問題も生じているため、委託料について見直しを進めます。</p>			
自己評価	B			

事務事業	No.2 2	成人式	R1 年度決算額	1,051 千円	
事業の目的	新成人を祝い、成人としての意識の高揚を図るため、式典を執り行います。				
事業内容	成人式を公民館単位の10地区で実施				
達成状況	平成21年度から伊那地域において公民館単位での実施に変更しています。 【参考】()内H30				
	地区	実施日	対象者	出席者	出席率
	竜西	8月15日	162人 (152人)	97人 (100人)	59.9% (65.8%)
	竜東	8月15日	245人 (233人)	142人 (146人)	58.0% (62.7%)
	富県	8月15日	27人 (24人)	20人 (17人)	74.1% (70.8%)
	美篁	8月15日	77人 (76人)	57人 (52人)	74.0% (68.4%)
	手良	8月14日	21人 (35人)	19人 (27人)	90.5% (77.1%)
	東春近	8月15日	71人 (75人)	50人 (55人)	70.4% (73.3%)
	西箕輪	8月15日	77人 (76人)	47人 (55人)	61.0% (72.4%)
	西春近	8月15日	70人 (76人)	53人 (67人)	75.7% (88.2%)
	高遠町地区	1月2日	54人 (52人)	43人 (47人)	79.6% (90.4%)
	長谷地区	1月1日	10人 (16人)	9人 (12人)	90.0% (75.0%)
		※伊那地区(竜西～西春近)	計	64.7%	(H29: 71.0%、H30: 69.5%)
		合計	66.0%	(H29: 72.9%、H30: 70.9%)	
事業の課題及び方向性	【課題】開催方法、時期、年齢など、伊那市としての開催目的を明確にすると共に、新成人にとってより良い成人式を検討します。 【方向性】「伊那市成人式のあり方庁内検討委員会」の意見をまとめ、関係団体等の意見を参考に検討していきます。				
自己評価	B				



伊那市成人式(竜西地区)



令和元年度記念品(印鑑ケース)

第2節 生涯にわたる学びの支援とスポーツの振興

信州大学や東京藝術大学をはじめとする教育機関等との連携強化を図るとともに、市民一人ひとりが目的に応じて、「いつでも、どこでも、いつまでも」学びやスポーツに親しむことができるよう、各種社会教育・スポーツ施設の充実と環境づくりを進めます。

また、国指定史跡である高遠城跡などの有形文化財をはじめ、無形民俗文化財など地域の文化財や伝統芸能の保存・継承・活用を推進するとともに、美術や音楽など文化芸術の振興を図ります。

2-1：生涯学習

生涯学習の総合的な指針「伊那市生涯学習基本構想」に基づく計画的な事業実施により、自然や文化、歴史、産業等地域の特徴を生かした生涯学習を推進し、年齢や職業を超えたあらゆる人々が興味を持って学ぶことのできる環境づくりに努めます。また、地域文化や生涯学習の拠点として、公民館の適正な維持管理に努め、施設の長寿命化を図るための施設改修等を行うほか、地域の「知の拠点・情報拠点」としての図書館の充実・活用を図るとともに、上伊那地域の図書館との連携により、利用者の利便性向上に努めます。

(1)生涯学習・社会教育の推進

事務事業	No.23	市民大学・市民大学大学院	R1 年度決算額	2,704 千円
事業の目的	市民の生涯学習の機運を醸成し、生涯学習を推進するため、学習要求に応えた各種講座を開催します。			
事業内容	講座の実施 ・芸術文化、歴史、自然科学、健康、音楽、人権などに関する講座の開催			
達成状況	【市民大学】開設二十二年目を迎え、様々な分野での学習探究の場として幅広く、充実した講座を展開しています。今後も自主運営を活発に行いながら、講座内容の充実を図ってまいります。			
	平成 31・令和元年度 講座内容			
	「里山の魅力・里山の美しさ」(講師：宮坂七郎)			
	「トークと語りべの世界」(講師：美咲蘭)			
	「今田人形浄瑠璃公演」(公演：今田人形保存会)			
	「伊那市の文化～スガレ追い～」(講師有賀幸雄)			
	「上伊那の貴重な植物」(講師：大学院講師 田中 茂)			
	「伊那という地」(講師：笠原 千俊 副学長)			
	「市政よもやま話」(講師：白鳥 孝 学長)			
	「井上井月の魅力②」(講師：堀井 正子)			
	「まるごと元気体操」(講師：山岸 洋子)			
	「映画(マタギ)の上映会とトーク」(講師：後藤 俊夫)			
	「伊那ビデオクラブの作品集から」(講師：赤羽 仁)ほか13講座 計24講座			
	【参考】第二十一期 後期 学生数132人12講座 第二十二期 前期 学生数102人12講座			
	【市民大学大学院】市民大学の修了者を対象に、さらに学習を深めていただく専門的な学びの場として2つのコースを用意し、第五期後半及び第六期前半を開講しました。伊那市の発展のため行動できる地域のリーダーとなる人材の育成を目指します。			
平成 31・令和元年度 研究内容				
歴史コース : 高遠藩藤澤郷の道 高遠の寺院を訪ねて ほか				
自然科学コース : 三峰川河川敷における環境の違いと植物 堆肥による生育の違い ほか				
【参考】第五期後期 歴史コース 5人6講座 自然科学コース 4人7講座 第六期前期 歴史コース 5人6講座 自然科学コース 4人2講座				

事業の課題及び方向性	<p>【課題】変化する社会に適応できる力をつけるために、受講者の学習要求を的確にとらえた魅力ある講座運営を行う必要があります。修了者の地域貢献の推進が必要です。</p> <p>【方向性】受講生による自主運営を基本に、魅力ある講座等を企画運営します。また、学習の成果が地域での活動に活かせるように促します。</p>
自己評価	B

事務事業	No.2 4	桜大学	R1 年度決算額	557 千円
事業の目的	生活にうらおいと生きがいを与え人生を心豊かに生きるため、生涯学習の場を提供します。			
事業内容	講座の開催（4月28日～11月23日 会場：やますそ）			
達成状況	公民館活動のひとつとして実施され、41回目を迎えた伝統ある住民の学習の場です。			
	令和元年度講座内容（講師）			
	「評伝 山川健次郎」～高遠衆の末裔～（山川健次郎顕彰会事務局長 森 武久 氏）			
	「学ぶ楽しさを知る」～金メダリスト小平奈緒の成長を支えて～（信州大学教育学部教授 結城 匡啓 氏）			
	「石にたずさわって生きる幸せ」（榎唐木屋石材工芸会長 唐木 一平 氏）			
事業の課題及び方向性	「知っておきたい殿様とのかかわり」～内藤家からの下賜品とその記録～（伊那市高遠町歴史博物館学芸員 福澤 浩之 氏）			
	【参考】受講者数 370 人（H28:550 人 H29:710 人 H30:542 人）			
事業の課題及び方向性	<p>【課題】講座内容、講師など地域の特性を活かした運営が求められています。</p> <p>【方向性】長年開催され、高遠町地域における生涯学習の場として定着しており、合併後、市民大学との共催講座なども実施し、伊那、長谷地域からの参加者も増えています。地域に縁がある方、地域について研究されている方などを講師に招き、地域の特性を生かした運営を行います。また、経費についても工夫しながら事業を進めます。</p>			
自己評価	B			

事務事業	No.2 5	長谷生涯学習講演会	R1 年度決算額	404 千円
事業の目的	地域住民の生活及び文化、教養の向上を図るため、生涯学習の場を提供します。			
事業内容	講演会の開催（11月10日 会場：長谷公民館 講堂） ・公民館・小中学校・小中学校PTAが共催し、著名な講師を招き講演会を開催しています。			
達成状況	令和元年度			
	<p>講演 スポーツが果たす役割（筑波大学大学院教授／柔道家 山口 香 氏）</p> <p>日本女子柔道をけん引し、「女三四郎」と称賛された元女子柔道選手、山口香さんをお迎えし、現役時代のエピソードや指導者としての豊富な経験から、人間としての成長にスポーツが果たす役割についてお話をいただきました。</p> <p>子どもから大人まで、幅広い年代層において共感できる内容であり、自分自身の反省や生き方について考えさせられた良い機会になったと、多くの聴講者から好評をいただきました。</p> <p>【参考】聴講者数 68 人</p>			
事業の課題及び方向性	<p>【課題】講座内容、講師など地域の特性を活かした運営が求められています。</p> <p>【方向性】過疎化や高齢化の進む地域においても住民が質の高い文化に触れる貴重な機会として、今後も工夫しながら進めます。</p>			
自己評価	C			

長谷生涯学習講演会の様子

講師の山口 香さん



事務事業	No.2 6	社会人権同和教育	R1 年度決算額	2,078 千円
事業の目的	人権問題に対する理解を促進し、全ての人の基本的人権を尊重するため、人権問題について学習する機会を提供します。			
事業内容	<p>人権問題についての講演会、巡回講座、学習講座を開催</p> <ul style="list-style-type: none"> ・同和問題や性別などの問題も含め、人権問題についても学習する機会を提供します。 ・人権同和教育講座の開催 ・人権同和教育指導案集増頁作成 			
達成状況	<p>公民館等と連携して開催している講座・学級が定着し、幅広い世代で人権問題に対する理解が図られています。少数者への理解として、LGBT など講話に取り入れました。</p> <p>【参考】講演会 5 回・615 人 (H29: 3 回・1,480 人、H30: 6 回・931 人) 公民館人権講座 11 回・321 人 (H29: 11 回・411 人、H30: 10 回・286 人)</p>			
事業の課題及び方向性	<p>【課題】 憲法の理念による基本的人権を尊重し、同和問題のみならず、社会の急激な変化に伴う全ての差別を防止する必要があります。</p> <p>【方向性】 市民の重要課題として、人権を学ぶ機会や情報の提供など啓発活動を進めます。</p>			
自己評価	B			

事務事業	No.2 7	学校人権同和教育	R1 年度決算額	330 千円
事業の目的	人権教育はすべての教育の基本という理念に立ち、各教科、道徳、総合的な学習の時間、特別活動などの特質に応じて、教育活動全体を通じて計画的に推進し、人権感覚を培い、人権課題を自ら解決する意欲と実践力を持つ子どもたちを育てます。			
事業内容	<p>○伊那市学校人権同和教育研究推進委員会の開催（委員長・副委員長・委員各学校 1 名）</p> <p>○人権教育講演会等の実施</p>			
達成状況	<p>○全ての小中学校において、それぞれの地域性、課題等の実態に沿った人権同和教育計画を立て、全教育活動を通じて実践しました。</p> <p>○伊那市学校人権同和教育研究推進委員会の開催 5 回 学社連携による推進会議（2 回）、職員研修会、人権同和教育研究授業参観・授業研究会開催</p> <p>○平成 28 年度に作成した「伊那市人権同和教育学習指導案集」の修正を行うとともに、性的少数者の人権に関する取組について増頁を行い、小中学校における人権同和教育に活用しました。</p> <p>○人権同和教育研修会を小学校 3 校、中学校 1 校で、CAP 研修会を小学校 1 校で実施しました。</p>			
事業の課題及び方向性	<p>【課題】 経済状況の悪化、いじめ、児童虐待等子どもたちを取り巻く環境は深刻です。また、子どもたちのコミュニケーション力、自尊感情の低下等が懸念されています。</p> <p>【方向性】 教職員が豊かな人権感覚を持ち、人権尊重の理念に基づいた人権教育を実践する力量を高めるよう教職員研修の充実に努めるとともに、子どもたちの実体験の機会を増やす等の取組を通じ、豊かな人間性の育成に努めます。</p>			
自己評価	B			

(2) 公民館活動の推進

事務事業	No.28	集会施設整備事業補助	R1 年度決算額	3,011 千円
事業の目的	地域住民の福祉の向上、コミュニティの推進、災害時の拠点の確保などに資するため、集会施設等を整備する費用の一部を補助します。			
事業内容	伊那市集会施設整備事業補助金交付要綱に基づき、集会施設の新築・増築・改築及び改修工事の補助金を交付します。			
	・対象施設及び交付基準			
		施設区分	事業区分	補助要件等
	公民館の分館 又は区が管理 運営する集会 施設		新築	補助率 工事費の25%以内 補助限度額 最高750万円まで 最低事業費 100万円以上
			増築・改築・ 改修	補助率 工事費の25%以内 補助限度額 最高120万円まで 最低事業費 50万円以上
			水洗化・ 耐震補強	補助率 工事費の30%以内 補助限度額 最高150万円まで 最低事業費 50万円以上
			外構整備・ 舗装	補助率 工事費の25%以内 補助限度額 最高120万円まで 最低事業費 50万円以上
	町内会・常会・ 組等が管理運 営する集会施 設		新築・増築	対象外
			改築・改修	補助率 工事費の25%以内 補助限度額 最高50万円まで 最低事業費 25万円以上
			水洗化・ 耐震補強	補助率 工事費の30%以内 補助限度額 最高60万円まで 最低事業費 25万円以上
外構整備・ 舗装			補助率 工事費の25%以内 補助限度額 最高50万円まで 最低事業費 25万円以上	
達成状況	○集会施設の公共性を考慮し、対象工事の経費の一部を補助しました。 【参考】補助施設数 11件 3,011千円 (H30: 9件 3,695千円) ○平成23年度から、合併前の3市町村の交付要綱を統一した、新要綱を運用しています。			
事業の課題及び方向性	【課題】地元要望がある施設については計画的に改築等を進める必要があります。 また、他の同様な補助事業主管課との調整が必要です。 【方向性】集会施設等は、地域住民の福祉の向上、コミュニティ活動の推進、災害時の拠点の確保などに資する事業であるため、予算の範囲内で計画的に費用の一部を補助します。			
自己評価	B			

事務事業	No.29	公民館建設（施設管理）	R1 年度決算額	70,487 千円
事業の目的	地域の生涯学習や地域コミュニティの形成など、地域づくりを推進するための拠点整備として、老朽化した公民館について計画的に改築や改修を行ないます。			
事業内容	○計画に基づき、施設の改築や改修を行う。			
達成状況	○西春近公民館の建設計画について検討・調整を行い、令和2年度当初予算に必要経費を計上しました。			
事業の課題及び方向性	【課題】 地元や関係団体との調整 【方向性】 合併特例債を財源とし、計画的に整備を進めます。			
自己評価	B			

事務事業	No.30	公民館共同事業	R1 年度決算額	6,779 千円
事業の目的	青少年の健全育成と家庭教育の充実を全市統一的に図るため、未就園・未就学の子ども、小学生とその家庭などを対象に、9公民館が共同して子ども向けの事業を実施します。地域の公民館分館活動を支援するとともに、地域理解を深めるため「ふるさと講座」を開催し、また公民館活動への理解を深めてもらうため広報誌を発行します。			
事業内容	○分館活動委託事業の実施 ○「公民館報いな」の発行			
達成状況	各事業への参加者は多く、集団の中で異年齢の子どもたちは「体験」を通して多くを学び、それぞれの事業目的が達成されています。 ・「ふるさと講座」（伊那公民館 約80人、富県公民館 約80人） ・84分館に活動委託 ・館報毎月発行第487号～第498号			
事業の課題及び方向性	【課題】 児童の居場所づくりや、「体験」「子ども主体の活動」の場としてニーズが高い事業であるため、地域や関係団体と連携し、充実を図る必要があります。 【方向性】 縦社会の再構築を願って「子どもが集う公民館」を重点テーマに、参加規模が大きな事業について公民館全体で共同事業として取り組みます。また、支援ボランティアの確保を進めます。			
自己評価	B			

事務事業	No.31	公民館事業	R1 年度決算額	105,696 千円
事業の目的	生涯学習を通じた生きがいづくりや地域づくりを推進するため、市内9公民館において、教室・講座・イベントなどを開催します。			
事業内容	高齢者、女性、成人、青少年、家庭など様々な分野において教室・講座・イベントなどを開催します。			
達成状況	各地域の特色や住民要望に応えた公民館活動が行なわれ、生涯学習の推進と地域づくりの役割を果たしています。			
	公民館	令和元年度活動内容（特徴的なもの）		
	伊那	夏休みおいで塾、らっこルーム、女性教室、伊那おやじの会、高齢者教室、市民ガーデニング講座、初めての切り絵教室、楽しい切り絵教室、元旦ジョギング、探鳥会など		
	富県	夏休み富県おいで塾、富県麻雀教室、トムキャロット、のどか学級、高鳥谷山区民ハイキング、いきもの探検隊、俳句教室、うたの教室、など		
	美篁	おいで塾宿泊学習、親子青空教室、「芽と実」読み聞かせ、場広山ハイキング、史跡探訪の会、童謡・唱歌の集い、トリムバレー大会、健康マージャン教室など		
手良	わいわいくらぶ、てらとぴあへおいで塾、茶道教室、おいさんずくらぶ、四ツ葉の集い、手良の歴史講座、手良地区大運動会、手良地区ハイキングなど			

	東春近	こども体験教室、楽生学級、女性教室、くれよんクラブ、チャレンジおっとこ塾、童謡唱歌を楽しむ会、森の音楽祭、東春近ハイキングなど
	西箕輪	わんぱく親子塾、通学合宿、脳イキイキ出前講座、冬の自然観察会、高原マラソン大会、夏休みおいで塾、星空観察会、紅葉教室、料理教室など
	西春近	西春近てらこや塾、出前講座、父居屋の会、かるがも学級、女論の会、万年青の会、女性トリムバレーボール大会、文化祭、趣味の会発表会など
	高 遠	進徳館夏の学校、美術館・歴史博物館特別展講座、最も美しい村・ジオパーク講座、さくらんぼきつず、桜大学講座、そば打ち講座、ふれあいスポーツクラブ、各種球技大会など
	長 谷	はせっこサマースクール、入野谷講座、戸台の化石学習会、ソフトテニス教室、くじらくらぶ、女性教室、うたのラウンジなど
	共 同	キッズ王国
	<p>【参考】講座・教室・イベントなど公民館利用者数 161,611人 (H29:170,542人、H30:171,348人)</p>	
事業の課題及び方向性	<p>【課 題】生活に結びついた公民館活動を通して、生涯学習と地域づくりを進める必要があります。</p> <p>【方向性】(1)まなぶ…いつでも、どこでも、だれもが学ぶことができ、学び合い、育ち合い、高めあう機会と場を提供します。</p> <p>(2)つなぐ…出会い、ふれあい、交わりを大切に、仲間づくりと地域の交流を進めます。</p> <p>(3)つくる…地域課題に取り組み、生き生きとした地域づくりと地域文化の伝承と創造を目指します。</p>	
自己評価	B	



キッズ王国の様子

(3) 図書館の充実

事務事業	No.3 2	蔵書管理	R1 年度決算額	12,116 千円																																				
事業の目的	市民が自主的な学習を行う「知の拠点」となるため、図書や情報資料の提供の充実を図ります。																																							
事業内容	○図書館資料の管理（選書、発注、装備・登録・修理、除籍） ○書架配置換え・案内表示の更新 ○図書館システムの維持・管理																																							
達成状況	優良図書の整備に努めるとともに、市民の知の拠点として定着しています。 ○令和元年度 <ul style="list-style-type: none"> ・システムデータの更新、保守、管理を行い、適正な運用に努めました。（伊那・高遠） ・諸資料の購入・整備、利用者への貸出・閲覧を行いました。（伊那・高遠） ・資料を有効活用するため、テーマ展示を定期的に行いました。（伊那・高遠） 【参考】 蔵書数は図書のみ、() 内H30																																							
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>名 称</th> <th>蔵書冊数</th> <th>貸出冊数</th> <th>登録者数（個人）</th> <th>利用者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>伊那図書館</td> <td>222,614 (219,895)</td> <td>307,422 (329,636)</td> <td>56,333 (55,346)</td> <td>70,566 (70,864)</td> </tr> <tr> <td>高遠町図書館</td> <td>95,401 (95,324)</td> <td>42,207 (42,333)</td> <td>6,762 (6,673)</td> <td>8,913 (9,293)</td> </tr> </tbody> </table>				名 称	蔵書冊数	貸出冊数	登録者数（個人）	利用者数	伊那図書館	222,614 (219,895)	307,422 (329,636)	56,333 (55,346)	70,566 (70,864)	高遠町図書館	95,401 (95,324)	42,207 (42,333)	6,762 (6,673)	8,913 (9,293)																					
名 称	蔵書冊数	貸出冊数	登録者数（個人）	利用者数																																				
伊那図書館	222,614 (219,895)	307,422 (329,636)	56,333 (55,346)	70,566 (70,864)																																				
高遠町図書館	95,401 (95,324)	42,207 (42,333)	6,762 (6,673)	8,913 (9,293)																																				
	・他市町村比較表																																							
	<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>人口一人当たり 蔵書冊数（冊）</th> <th>人口一人当たり 貸出冊数（冊）</th> <th>登録率% (登録者数/人口)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>伊那市</td> <td>6.2</td> <td>7.0</td> <td>97</td> </tr> <tr> <td>駒ヶ根市</td> <td>5.6</td> <td>5.9</td> <td>51</td> </tr> <tr> <td>辰野町</td> <td>4.4</td> <td>3.9</td> <td>88</td> </tr> <tr> <td>箕輪町</td> <td>2.7</td> <td>3.5</td> <td>60</td> </tr> <tr> <td>飯島町</td> <td>8.2</td> <td>4.8</td> <td>104</td> </tr> <tr> <td>南箕輪村</td> <td>6.0</td> <td>7.5</td> <td>53</td> </tr> <tr> <td>中川村</td> <td>14.6</td> <td>6.5</td> <td>118</td> </tr> <tr> <td>宮田村</td> <td>7.3</td> <td>4.8</td> <td>86</td> </tr> </tbody> </table>					人口一人当たり 蔵書冊数（冊）	人口一人当たり 貸出冊数（冊）	登録率% (登録者数/人口)	伊那市	6.2	7.0	97	駒ヶ根市	5.6	5.9	51	辰野町	4.4	3.9	88	箕輪町	2.7	3.5	60	飯島町	8.2	4.8	104	南箕輪村	6.0	7.5	53	中川村	14.6	6.5	118	宮田村	7.3	4.8	86
	人口一人当たり 蔵書冊数（冊）	人口一人当たり 貸出冊数（冊）	登録率% (登録者数/人口)																																					
伊那市	6.2	7.0	97																																					
駒ヶ根市	5.6	5.9	51																																					
辰野町	4.4	3.9	88																																					
箕輪町	2.7	3.5	60																																					
飯島町	8.2	4.8	104																																					
南箕輪村	6.0	7.5	53																																					
中川村	14.6	6.5	118																																					
宮田村	7.3	4.8	86																																					
事業の課題及び方向性	【課 題】 市民の「知の拠点」として、多様化する市民の知的ニーズに応えるとともに図書や図書館を取り巻く社会状況の変化に対応していく必要があります。 【方向性】 調査・研究・資料の収集整理をし、情報提供を積極的に行ないます。また、イベントなどを通して、親しみやすい図書館になるよう努めます。																																							
自己評価	B																																							

事務事業	No.3 3	図書館イベント	R1 年度決算額	1,204 千円
事業の目的	幅広い世代が「実感・体感」を伴った知の獲得と創造する営みの楽しさを得るため、各種イベントを開催するとともに、ボランティアなどの人材育成を推進します。			
事業内容	○おはなしのひろばの開催（職員、ボランティアによる読み聞かせ） ○ブックスタートの実施（乳児へ絵本のプレゼント） ○各種講座 児童対象：おはなしのひろば、おりがみ教室、工作教室など 一般対象：絵本作家講演会、図書館講座など ○除籍本頒布会、図書館まつりの開催 ○利用者団体への支援			
達成状況	各種イベントや講座の開催を通じて、市民に親しみやすい図書館が定着してきています。 【参考】 ブックスタート 456 冊 (H29:512 冊、H30:472 冊)			

	イベント 222 回 6,084 人 (H29:266 回 5,637 人、H30:234 回 6,148 人) 広域情報コーナー利用 17 団体 (H29:21 団体、H30:21 団体)
事業の課題及び方向性	【課題】市民に身近な図書館となるために、市民との協働による図書館運営を図る必要があります、そのきっかけを作る講座などを企画する必要があります。 【方向性】市民と協働しながら、イベントや講座など魅力ある図書館運営を進めます。
自己評価	B

事務事業	No.3 4	図書館分館	R1 度決算額	8,977 千円																																								
事業の目的	地区住民の図書館利用の利便を図るため、地区公民館に図書室を設置し、図書や情報資料の提供の充実を図ります。																																											
事業内容	○図書館分館（公民館図書室）の運営と管理 ○公民館の改築にあわせた図書館分館の設置																																											
達成状況	<p>図書館分館の増加とともに、利用者も増えています。</p> <p>○令和元年度は、各公民館図書館の図書資料の整備を行いました。 2,615 冊</p> <p>【参考】 蔵書数は図書のみ、() 内 H30</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>名 称</th> <th>蔵書冊数</th> <th>貸出冊数</th> <th>登録者数 (個人)</th> <th>利用者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>東春近</td> <td>18,726 (18,756)</td> <td>18,622 (18,903)</td> <td>1,454 (1,424)</td> <td>3,147 (3,175)</td> </tr> <tr> <td>富 県</td> <td>14,843 (15,134)</td> <td>20,275 (22,940)</td> <td>816 (794)</td> <td>3,515 (3,613)</td> </tr> <tr> <td>手 良</td> <td>12,201 (10,982)</td> <td>18,560 (19,315)</td> <td>493 (476)</td> <td>3,706 (3,724)</td> </tr> <tr> <td>長 谷</td> <td>11,989 (11,736)</td> <td>4,745 (3,839)</td> <td>207 (201)</td> <td>949 (976)</td> </tr> <tr> <td>美 篤</td> <td>16,891 (16,547)</td> <td>14,920 (18,510)</td> <td>905 (860)</td> <td>3,730 (3,756)</td> </tr> <tr> <td>西箕輪</td> <td>7,265 (6,634)</td> <td>15,208 (16,247)</td> <td>369 (338)</td> <td>3,684 (3,701)</td> </tr> <tr> <td>合 計</td> <td>81,915 (79,789)</td> <td>92,330 (99,754)</td> <td>4,244 (4,093)</td> <td>18,731 (18,945)</td> </tr> </tbody> </table> <p>・施設利用率（各地区利用者数／分館設置地区の人口）73.1% (72.8%)</p>				名 称	蔵書冊数	貸出冊数	登録者数 (個人)	利用者数	東春近	18,726 (18,756)	18,622 (18,903)	1,454 (1,424)	3,147 (3,175)	富 県	14,843 (15,134)	20,275 (22,940)	816 (794)	3,515 (3,613)	手 良	12,201 (10,982)	18,560 (19,315)	493 (476)	3,706 (3,724)	長 谷	11,989 (11,736)	4,745 (3,839)	207 (201)	949 (976)	美 篤	16,891 (16,547)	14,920 (18,510)	905 (860)	3,730 (3,756)	西箕輪	7,265 (6,634)	15,208 (16,247)	369 (338)	3,684 (3,701)	合 計	81,915 (79,789)	92,330 (99,754)	4,244 (4,093)	18,731 (18,945)
名 称	蔵書冊数	貸出冊数	登録者数 (個人)	利用者数																																								
東春近	18,726 (18,756)	18,622 (18,903)	1,454 (1,424)	3,147 (3,175)																																								
富 県	14,843 (15,134)	20,275 (22,940)	816 (794)	3,515 (3,613)																																								
手 良	12,201 (10,982)	18,560 (19,315)	493 (476)	3,706 (3,724)																																								
長 谷	11,989 (11,736)	4,745 (3,839)	207 (201)	949 (976)																																								
美 篤	16,891 (16,547)	14,920 (18,510)	905 (860)	3,730 (3,756)																																								
西箕輪	7,265 (6,634)	15,208 (16,247)	369 (338)	3,684 (3,701)																																								
合 計	81,915 (79,789)	92,330 (99,754)	4,244 (4,093)	18,731 (18,945)																																								
事業の課題及び方向性	<p>【課題】より身近な地域の図書館として、子どもから高齢者までの利用者の利便を図る必要があります。</p> <p>【方向性】西春近公民館の建て替えて図書室が設置されるため地域に合わせた選書と、より身近に感じていただける図書館サービスについて検討を進めます。</p>																																											
自己評価	B																																											

2-2 : 文化・芸術

多様な文化芸術や伝統芸能などの保存団体の育成を推進するとともに、意識の高揚などを通じて、市民の文化芸術活動の振興を図るとともに、新しい文化の創造を推進します。

歴史資料や美術工芸品、建造物などの文化財は、市民等の学習・研究及び地域の活性化に生かすため、適切な保存管理と有効活用を図ります。また、多様な学習ニーズに対応するため、地域の学習拠点となる各施設の充実に努めます。

(1) 文化芸術の振興と地域文化の育成

事務事業	No.35	進徳館の日	R1 年度決算額	383 千円
事業の目的	進徳館教育から先人の遺訓を学び、その精神を現代に活かして歴史と文化のまち伊那市へ一層の発展を図ります。			
事業内容	○式典、基調講演、学習発表など（5月25日 会場：進徳館、高遠閣） ○剣道大会（5月25日 会場：高遠町文化体育館）			
達成状況	<p>実学重視の藩校「進徳館」の学びの心に触れ、藩校教育の伝統や精神を継承し、地域の生涯学習の振興を図る事業として地域に定着しています。また、旧高遠藩主をはじめ、藩関係者との交流の機会ともなっている。</p> <p>○令和元年度 第25回進徳館の日</p> <ul style="list-style-type: none"> ・五聖像に礼拝 ・式典 ・基調講話 高遠北小学校 小出 豊 校長 「地域とともに歩む北小」 ・実践報告 前高遠町公民館長 原 和男 氏 「『進徳館夏の学校』をひらく ― 開校10周年の実践を振り返って ―」 ・記念講演 「明治時代における信州諸藩の藩校旧蔵図書 ― 保存と利用のあり方について ―」 講師 白井 純 氏（広島大学大学院 文学研究科 准教授） <p>【参考】参加人数 約100人（H26:150人 H27:150人 H28:200人 H29:250人 H30:250人）</p> <p>○令和元年度 第21回進徳館の日記念少年剣道大会</p> <p>【参考】参加数 27チーム（H27:35チーム H28:39チーム H29:38チーム H30:42チーム）</p>			
事業の課題及び方向性	<p>【課題】藩校「進徳館」の藩校教育の伝統や精神を継承し、その精神を現代に生かした事業展開を行なう必要があります。</p> <p>【方向性】進徳館教育の精神や優れた点を学び、現代社会に対応する方策を創造するとともに、広くPRすることによりこの事業の活用と面的な拡大を図ります。</p>			
自己評価	B			

(2) 文化財の保存・継承・活用

事務事業	No.36	史跡高遠城跡	R1 年度決算額	3,570 千円
事業の目的	昭和48年に藩校進徳館を含め国指定史跡となった。それ以前の昭和35年にはコヒガンザクラ樹林が県の天然記念物に指定されており、4月の観桜期には多くの観光客でにぎわう。合併後の新伊那市の歴史財産である城跡の価値を損なうことなく次世代へ受け継ぎ、だれもが地域の歴史や文化を学ぶことができる環境づくりを進めるため、史跡の保存整備事業を行います。			
事業内容	・史跡高遠城跡の維持管理及び、保存管理計画等に基づき、三の丸北側斜面整備工事を行いました。			
達成状況	○ 三の丸北側斜面整備工事（人工林伐採）の実施			

事業の課題及び方向性	<p>【課題】整備実施計画の短期整備計画（H17～）に基づき、残存遺構などの調査を進める必要があります。</p> <p>【方向性】整備委員会の開催により第3次整備実施計画を策定します。</p>
自己評価	B



池上秀敏 画「旧高遠城之真景」

事務事業	No.37	民俗資料館	R1 年度決算額	4,303 千円
事業の目的	市内の民俗資料を継承するため、資料を収集・保管・整理・展示するとともに、体験できる施設として「高遠なつかし館」と、歴史的建造物の「旧馬島家」、「旧池上家」を企画運営します。			
事業内容	○高遠なつかし館、旧馬島家、旧池上家の企画運営			
	施設名	内容等		
	高遠なつかし館	住民から集めた昔懐かしい農具や生活用品などを展示。機織りや縄ない、蓄音機、足踏みミシンなどの体験ができる。高遠藩医を勤めた馬島家に関する資料も展示してある。		
	旧馬島家（県宝）	江戸時代に高遠藩の眼科医を勤めた馬島家の住宅。本棟造りの建物で、後世の改造が少なく、建造当初（天保7年（1836）頃）の形式を残しており、高遠藩当時の規模の大きな住宅の間取りを良く示している。		
旧池上家（市指定文化財）	豪壮な歴史の重さを感じる建物で、間口5間、奥行9間の町屋造り板葺きの住宅。町屋造りの家屋としては町内で最も古く、所蔵されている古文書も多い。池上家は、高遠城下で醤油や酢の自家醸造や販売を営みながら、代々町の重職を務めた。			
	○特別企画展示の開催（年2回） ○公民館と共催で体験講座を開催			
達成状況	○企画展 「ひな人形展」 2/7～4/22、「五月人形展」 4/25～6/3 ○体験イベント もみじまつりお茶会 10/27 58人 【参考】年間入館者数6,760人（なつかし館・旧馬島家：6,030人、旧池上家：730人） （H29：6,282人、H30：4,682人）			

事業の課題及び方向性	<p>【課題】入館者を更に増やすために、昔を体験できる施設として広くPRし、利活用を図る必要があります。</p> <p>【方向性】「観て・触って・やってみる」をモットーに、魅力ある企画展、体験講座などを実施しながら、点在する施設と周辺施設とを組み合わせた散策モデルコースを作成することにより集客できる運営に努めます。</p>
自己評価	A



旧馬島家（県宝）



旧池上家（市指定文化財）

事務事業	No.38	旧井澤家住宅	R1 年度決算額	1,700 千円
事業の目的	伊那街道伊那部宿の宿内で唯一の本棟造で最古の建物を保存するとともに、一般公開し活用を図ります。			
事業内容	<p>○管理及び運営を地元「伊那部宿を考える会」に委託</p> <p>○一般公開</p> <p>・建物の概要 木造一部2階建 建築延面積 389.88 m²</p>			
達成状況	<p>○令和元年度企画行事</p> <p>「端午の節句飾り」、「押し花作品展」、「絵手紙作品展」ほか</p> <p>【参考】入館者数 1,263 人 (H30: 1,574 人)</p>			
事業の課題及び方向性	<p>【課題】地元の歴史的施設として有効に活用するとともに、周辺施設とも関連させながら、常に魅力ある運営を継続して進める必要があります。</p> <p>【方向性】地元の伊那部宿の貴重な歴史資料を生かし、多くの来館者を誘客できる企画について継続して見直しを進めます。</p>			
自己評価	B			

事務事業	No.39	民俗文化の伝承	R1 年度決算額	63 千円
事業の目的	「山寺のやきもち踊り」や「中尾歌舞伎」、「高遠囃子」などの民俗文化を継承する活動を支援します。			
事業内容	中尾歌舞伎などの民俗文化の継承を図るため、国・県・市の補助・助成制度を活用した支援事業を行っています。			
達成状況	<p>令和元年度事業</p> <p>○伝統文化親子教室事業（文化庁）を活用（5団体）</p> <p>○中尾歌舞伎春季定期公演の実施</p> <p>平成30年の活動再開以降、市内を中心とした多くの関係者からのご支援をいただく中で、後継者の育成や人材確保及び地域の関わり方についての具体的な検討を行いながら、持続可能な保存伝習活動を進めています。</p> <p>日時 平成31年4月29日（月・祝） 開場：午後0時30分 開演：午後1時30分</p> <p>演目 「絵本太功記十段目 尼ヶ崎閑居の場」</p> <p>会場 長谷伝統文化等保存伝習施設「中尾座」 来場者：300名</p>			

事業の課題及び方向性	<p>【課題】地域の民俗文化を伝承しようとする地域の意識醸成を促しつつ、継続的また長期的にわたり活動できる体制づくりが必要です。</p> <p>○人口減少・少子高齢化が進み地域としての活力が乏しくなる中、住民が自らの生活と同じくらいに、民俗文化継承の大切さを意識できる土台づくりが急務です。</p> <p>【方向性】有利な財源を確保しながら、人材発掘と育成を進めます。</p>
自己評価	B




中尾歌舞伎 「絵本太功記十段目 尼ヶ崎閑居の場」



山寺のやきもち踊り

(2) 文化芸術施設の充実及び活用

事務事業	No.40	創造館	R1 年度決算額	43,880 千円				
事業の目的	市民の憩いの場及び生涯学習の場として、施設の管理・運営を行うとともに、「縄文から宇宙まで」をテーマに自然科学、宇宙、考古、歴史・民俗、芸術、環境などに関するユニークで独創的な事業を実施し、夢多き未来に向かって人類の進化の礎である「創造」を実践します。							
事業内容	<input type="radio"/> 自主事業 ・講演会、講座等の開催 <input type="radio"/> 展示関係 ・常設展、企画展 2 回、特別展 2 回 <input type="radio"/> 貸館業務 ・学習室、体験教室 1、体験教室 2、講堂 <input type="radio"/> 資料の保管		マスコットキャラクター 「つくルン」					
達成状況	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th colspan="2" style="text-align: center;">令和元年度 事業内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> 【講演会】 宇宙講演会「はやぶさ 2」いよいよ帰還へ寺菌淳也氏講演会 参加者 60 人 【講座等】 宇宙の学校 (5 回)、地球の学校 (5 回)、夏の体験教室、秋冬の体験教室、学校単位での見学受け入れ、自主制作映画祭 延参加者 1,013 人 【常設展示】 神子柴遺跡出土品及び顔面付釣手形土器 (国重要文化財) 【企画展展示】 第 22 回企画展 (プロダクトデザインの 30 年) 第 23 回企画展 (蕎麦は正義) 特別展 (特別展 JICA 駒ヶ根~駒ヶ根青年海外協力隊訓練所開設 40 周年記念パネル展示) 特別展 (伊那谷の生んだ芸術家たち (6)) 特別展 (「信州伊那谷の美味しい昆虫」) 延観覧者 16,674 人 収蔵物貸し出し (顔面把手付大深鉢: 浅間縄文ミュージアム) 収蔵物貸し出し (顔面付釣手形土器レプリカ: 知立市歴史民俗資料館) </td> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> 【貸館】 延利用者 13,292 人 【参考】 R1 開館日数 306 日、利用者数 30,253 人 H30 開館日数 305 日、利用者数 48,344 人 </td> </tr> </tbody> </table>				令和元年度 事業内容		【講演会】 宇宙講演会「はやぶさ 2」いよいよ帰還へ寺菌淳也氏講演会 参加者 60 人 【講座等】 宇宙の学校 (5 回)、地球の学校 (5 回)、夏の体験教室、秋冬の体験教室、学校単位での見学受け入れ、自主制作映画祭 延参加者 1,013 人 【常設展示】 神子柴遺跡出土品及び顔面付釣手形土器 (国重要文化財) 【企画展展示】 第 22 回企画展 (プロダクトデザインの 30 年) 第 23 回企画展 (蕎麦は正義) 特別展 (特別展 JICA 駒ヶ根~駒ヶ根青年海外協力隊訓練所開設 40 周年記念パネル展示) 特別展 (伊那谷の生んだ芸術家たち (6)) 特別展 (「信州伊那谷の美味しい昆虫」) 延観覧者 16,674 人 収蔵物貸し出し (顔面把手付大深鉢: 浅間縄文ミュージアム) 収蔵物貸し出し (顔面付釣手形土器レプリカ: 知立市歴史民俗資料館)	【貸館】 延利用者 13,292 人 【参考】 R1 開館日数 306 日、利用者数 30,253 人 H30 開館日数 305 日、利用者数 48,344 人
令和元年度 事業内容								
【講演会】 宇宙講演会「はやぶさ 2」いよいよ帰還へ寺菌淳也氏講演会 参加者 60 人 【講座等】 宇宙の学校 (5 回)、地球の学校 (5 回)、夏の体験教室、秋冬の体験教室、学校単位での見学受け入れ、自主制作映画祭 延参加者 1,013 人 【常設展示】 神子柴遺跡出土品及び顔面付釣手形土器 (国重要文化財) 【企画展展示】 第 22 回企画展 (プロダクトデザインの 30 年) 第 23 回企画展 (蕎麦は正義) 特別展 (特別展 JICA 駒ヶ根~駒ヶ根青年海外協力隊訓練所開設 40 周年記念パネル展示) 特別展 (伊那谷の生んだ芸術家たち (6)) 特別展 (「信州伊那谷の美味しい昆虫」) 延観覧者 16,674 人 収蔵物貸し出し (顔面把手付大深鉢: 浅間縄文ミュージアム) 収蔵物貸し出し (顔面付釣手形土器レプリカ: 知立市歴史民俗資料館)	【貸館】 延利用者 13,292 人 【参考】 R1 開館日数 306 日、利用者数 30,253 人 H30 開館日数 305 日、利用者数 48,344 人							
事業の課題及び方向性	【課題】 事業の実施に際して、生涯学習センター、市立図書館、公民館等の社会教育施設との棲み分けを図るとともに、連携・協働を推進する必要があります。 子どもが興味を持ち、参加したくなるプログラムの作成が必要です。 【方向性】 自然科学、考古、宇宙、歴史、教育等を中心にユニークで魅力ある事業の企画・運営を実践するとともに、学習と交流の拠点施設として、市民等が利用しやすい館の運営に努めます。							
自己評価	B							

事務事業	No.4 1	高遠町歴史博物館	R1 年度決算額	30,559 千円
事業の目的	市民の歴史文化に係る学習と教養の向上を図るため、地域の歴史と文化に関する資料を収集、保管、展示します。また、市の観光にも寄与するため広く情報を発信し、資料の活用を通じた文化交流を図ります。			
事業内容	○歴史博物館の運営及び管理			
	○常設展示			
	展示場所	展示内容		
	桜シアター	高遠城址公園に咲く満開のタカトオコヒガンザクラの映像		
	山車展示室	貴船社・仲町の山車、鉾持神社の幟、祭の衣装など高遠の祭に関するもの		
	第1展示室 (特別展会場となる場合あり)	高遠で発掘された埋蔵文化財 高遠城のジオラマや絵図などの高遠藩関係資料 高遠藩主内藤家の調度品、内藤家家宝の兜、古文書 絵島が囲み屋敷で過ごした間に使用したもの		
	第2展示室	藩校進徳館と「高遠の学」 阪本天山、伊澤修二、中村弥六など、地域の先人たち		
	第3展示室 (特別展会場となる場合あり)	中村不折の書画 城下町のジオラマ、中馬・杣・石工の道具など、人々の暮らし 石仏師守屋貞治 高遠焼		
絵島囲み屋敷	江戸時代大奥で6代将軍家宣の側室月光院に仕えた絵島が、将軍家の墓参の帰路、芝居見物をして帰城が遅れ、公務をおろそかにしたとして罪に問われ、高遠へ遠流となった当時の復原屋敷を展示			
○特別展の開催（下記）				
達成状況	【特別展】 第62回特別展 花とともに生きる（3月9日～6月18日） 第63回特別展 出征兵士と家族の肖像展（7月27日～8月18日） 第64回特別展 文よく武を制す～高遠進徳館から信州教育に連なる群像～ （9月13日～12月8日） 第65回特別展 上伊那郡市小中学生社会科新聞展（10月19日～11月4日）			
	【講座】 歴博講座（年4回） 参加者数 延べ215人 中学生講座 参加者23人 歴博古文書講座（3クラス、年6回ずつ） 参加者数 延べ202人			
事業の課題及び方向性	【施設整備】 絵島囲み屋敷修繕工事など			
	【その他】 地域文化デジタル化事業			
自己評価	【参考】 ・年間入館者数 19,644人（H30：17,224人、H29：17,561人）			
	【課題】市民の歴史文化の学習と教養の向上のために、所蔵資料の活用、情報発信、他の自治体との文化交流を図る必要があります。 【方向性】館の取り組みが市民から見え、皆さんの伊那の地を愛する思いに応える学習センターとしての働きを高めるため、常設展示に加え、魅力ある特別展や講座を開催します。			
自己評価	B			

事務事業	No.4 2	信州高遠美術館	R1 年度決算額	114,835 千円										
事業の目的	地域の方々が芸術文化に触れ、親しんでもらう機会を提供するため、美術館を運営します。													
事業内容	<p>○収蔵作品展 原田政雄画伯から寄贈された 668 点の作品を中心に、地元出身の中村不折、池上秀畝、江崎孝坪の作品や、平山郁夫、中川紀元などの作家の作品を展示</p> <p>○ギャラリー展 地元で活躍している作家やグループ、高校生、保育園児などの作品を展示</p> <p>○企画展 観桜期特別展や若手作家を支援するための若手アーティスト展などを開催</p> <p>○アートスクール 地元芸術家の指導と協力を得て、陶芸、絵画、書道などの講座を通年開催</p> <p>○ミュージアムコンサート 弦楽器やピアノなど国内外で活躍中の演奏家や、地域で活躍している演奏家によるコンサート</p> <p>○美術大学との連携事業 市内の古民家を活用し、東京藝術大学の講師・学生、地域住民とともに伊那市の魅力について考え発信する、芸術文化の拠点づくり</p> <p>○収蔵庫棟建設事業 美術館充実のための作品収集や寄贈により、収蔵庫が狭隘となってきたため、平成 30 年度から令和元年度の継続事業として収蔵庫棟建設工事を実施</p>													
達成状況	<p>伊那市唯一の美術館として、芸術鑑賞にとどまることなく、芸術講座などを積極的に企画し、市民の芸術文化の向上に寄与しています。</p> <p>○令和元年度企画展</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>テ ー マ</th> <th>内 容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>柘植伊佐夫 UNITY -人物デザインの世界展- (4月6日～5月19日)</td> <td>人物・衣装デザインなどの分野で活躍する柘植伊佐夫氏監修の、NHK大河ドラマ『龍馬伝』、大河ファンタジー『精霊の守り人』や映画、舞台の衣装や装飾品を展示しました。</td> </tr> <tr> <td>若手アーティスト展 -一等身大のゆらぎ- (7月27日～9月8日)</td> <td>武蔵野美術大学で学ぶ若手作家 7 人によるグループ展。卒業を控え、心のゆらぎを抱える若手アーティストたちが、自分自身の等身大の形を見つめる作品に託し展示しました。</td> </tr> <tr> <td>モリカラモリヘー 8 人の作家と東京藝術大学デザインプロジェクト (9月14日～11月10日)</td> <td>東京藝術大学出身 8 人のアーティストが、森やそこに棲む動物など自然からインスピレーションを受けて制作した作品を展示。また、大学と伊那市との連携事業「デザインプロジェクト」やワークショップの成果を展示しました。</td> </tr> <tr> <td>昇華と深化の画人 -中島千波- (3月7日～5月10日)</td> <td>小布施町のおぶせミュージアム・中島千波館から作品をお借りし、「さくら」をテーマにした作品をはじめ、中島千波氏の多彩な作品約 60 点を展示しました。(新型コロナウイルス感染防止のため、4/10～5/10 臨時休館)</td> </tr> </tbody> </table> <p>○ミュージアムコンサート ヴァイオリンとチェロのアンサンブルを実施。3月に予定していた川畠成道ヴァイオリンリサイタルは、新型コロナウイルス感染防止のため中止しました。</p> <p>○美術大学との連携事業 高遠町塩供の古民家を活用し、東京藝術大学の講師・学生による子どもワークショップ、住民との交流会を開催しました。 【参考】入館者数 10,466 人 (H29:15,860 人、H30:16,558 人)</p>				テ ー マ	内 容	柘植伊佐夫 UNITY -人物デザインの世界展- (4月6日～5月19日)	人物・衣装デザインなどの分野で活躍する柘植伊佐夫氏監修の、NHK大河ドラマ『龍馬伝』、大河ファンタジー『精霊の守り人』や映画、舞台の衣装や装飾品を展示しました。	若手アーティスト展 -一等身大のゆらぎ- (7月27日～9月8日)	武蔵野美術大学で学ぶ若手作家 7 人によるグループ展。卒業を控え、心のゆらぎを抱える若手アーティストたちが、自分自身の等身大の形を見つめる作品に託し展示しました。	モリカラモリヘー 8 人の作家と東京藝術大学デザインプロジェクト (9月14日～11月10日)	東京藝術大学出身 8 人のアーティストが、森やそこに棲む動物など自然からインスピレーションを受けて制作した作品を展示。また、大学と伊那市との連携事業「デザインプロジェクト」やワークショップの成果を展示しました。	昇華と深化の画人 -中島千波- (3月7日～5月10日)	小布施町のおぶせミュージアム・中島千波館から作品をお借りし、「さくら」をテーマにした作品をはじめ、中島千波氏の多彩な作品約 60 点を展示しました。(新型コロナウイルス感染防止のため、4/10～5/10 臨時休館)
テ ー マ	内 容													
柘植伊佐夫 UNITY -人物デザインの世界展- (4月6日～5月19日)	人物・衣装デザインなどの分野で活躍する柘植伊佐夫氏監修の、NHK大河ドラマ『龍馬伝』、大河ファンタジー『精霊の守り人』や映画、舞台の衣装や装飾品を展示しました。													
若手アーティスト展 -一等身大のゆらぎ- (7月27日～9月8日)	武蔵野美術大学で学ぶ若手作家 7 人によるグループ展。卒業を控え、心のゆらぎを抱える若手アーティストたちが、自分自身の等身大の形を見つめる作品に託し展示しました。													
モリカラモリヘー 8 人の作家と東京藝術大学デザインプロジェクト (9月14日～11月10日)	東京藝術大学出身 8 人のアーティストが、森やそこに棲む動物など自然からインスピレーションを受けて制作した作品を展示。また、大学と伊那市との連携事業「デザインプロジェクト」やワークショップの成果を展示しました。													
昇華と深化の画人 -中島千波- (3月7日～5月10日)	小布施町のおぶせミュージアム・中島千波館から作品をお借りし、「さくら」をテーマにした作品をはじめ、中島千波氏の多彩な作品約 60 点を展示しました。(新型コロナウイルス感染防止のため、4/10～5/10 臨時休館)													

事業の課題及び方向性	<p>【課題】入館者数が昨年に比べ減となりました。さらに文化芸術活動の振興のため、裾野を広げる事業や参加しやすい事業の検討が必要です。</p> <p>【方向性】親しみやすい企画展や所蔵作品を活かした展示企画の検討、市内の文化施設や、東京藝術大学等とも連携して事業を進めます。また、魅力ある講座・教室を企画し、貸し館事業（コンサート・展覧会・結婚式等）も進めて、市民が芸術文化に触れ、美術館に親しんでもらえる機会を積極的に提供します。</p>
自己評価	B

【参 考】

令和2年度 教育委員会の事務の管理及び執行状況の点検及び評価報告書
追加・廃止事業及び前年度自己評価から変更のあった事業にかかる評価理由

1 追加事業

No.	該当なし	

2 廃止事業

No.	該当なし	

3 前年度自己評価から変更のあった事業

No.24	桜大学	A→B
参加者数が減少。他行事との日程調整や、より魅力的な講座の開催について考慮する。		
No.25	長谷生涯学習講演会	B→C
聴講者数が前年度より著しく減少。より効果的な周知方法について検討を要する。		
No.37	民俗資料館	B→A
歴博との連携などの工夫により、入館者数が3割増加した。		
No.40	創造館	A→B
企画が計画通りに進まず、入館者数が減少した。企画立案体制の見直しを行う。		
No.42	信州高遠美術館	A→B
観桜期特別展の入館者数が昨年度を大幅に下回った。魅力ある企画を再検討する。		

伊那市教育委員会評価委員による意見

1 教育委員会の自己評価について

「妥当」である。(2名) ・ 「概ね妥当」である(1名)

【理由】 多岐にわたりきめ細かい取り組みがされ、成果が十分に上がっていると考え。市民目線で、市民に寄り添った意識が感じられる有意義な事業内容である。

2 伊那市の教育行政及び事務事業全般について

- (1) 多岐にわたりきめ細かな施策がなされており、教育に対する視野の広さと重要な位置づけという考えが感じられる。
- (2) 幼保小中高の学校連携は、様々な取り組みの中で成果を上げていることについて高く評価している。今後は地域や企業との連携がより一層大切になってくるが、上伊那地域は産学官の連携が進んでおり、大変すばらしい取り組みがなされているので、この動きがさらに高まるよう期待する。
- (3) 伊那市には数多くの文化遺産があり、歴史的、民俗的に重要な事象も多い。伊那市誌の編さんに当たり、記録として、また学問的資料として、価値の高いものができることを願う。
- (4) 伊那市にある産業、地域文化、観光をうまく融合させ、イベント等において伊那の産業の紹介や季節に合わせた食や文化をコラボして紹介するなど、イメージを大切にした伊那市の魅力発信をし、将来子どもたちがどうしたら戻ってきてもらえるか考え、取り組む必要がある。
- (5) 「確かな学力」をつける授業づくりの充実、安心して学べる環境と対応が必要だと感じる。子どもが興味・関心をもって積極的に取り組むことや相手(友達)の考えを聞きながら互いに比べ合い共有することなど、主体的、対話的な学びを重視し、目指してもらいたい。
- (6) 児童生徒の指導に当たる際、家庭の状況や家族の姿勢等が大きな障害となっていることを感じることも多い。教育と福祉とのより一層の協力体制の構築を望む。
- (7) 「教育格差」が広がる中で、経済的に厳しい家庭、ひとり親家庭などの子ども達が無料で学習できる場所の提供・充実を望む。
- (8) 厳しい社会環境の中で、いじめ・暴力行為・不登校が増加している。子どもの人権を守り、尊重する社会、そして安心安全な環境下で子どもたちが心身ともに健全に成長していくことを願う。
- (9) 伊那市の中心(へそ)はどこかと考えた時、市役所が原点だと思う。市役所を子どもから高齢者まで人が集まり楽しく集える場所とするべきである。市役所をもっと開放し、市民相互の情報発信の場となれば、人との接点が増え愛着がわき、市外へ出た若者等が戻る場所となる。市役所を身近に感じて皆が行きたがる施設にすることは、生涯学習を進める教育委員会が検討すべきものと考え。

3 各事務事業について

No.	事務事業等	意見等
2	キャリア教育の推進	<p>職場体験がきっかけとなり職業選択するケースもあることから、子ども達にとって大きな影響を持つ機会であり、今後も発展的な継続を求める。また、業種ではなく職種として多様な選択肢があることを伝えることで、将来的に伊那で生活する人が増やせるのではないかと考える。</p> <p>職場体験学習などを通じ、働く意義や大切さを肌で感じる事ができれば効果的である。この経験が郷土愛へとつながり、若者が地元で就職し伊那市の明るい未来・発展のために若いパワーを集結し活躍してくれるよう願う。</p>
3	幼保小中の連携	<p>小1プロブレム、中1ギャップに対する対応を課題として挙げているが、校種間の連携のみならず、地域との連携も大切になってくる。社会教育などとの結びつけなども必要と考える。</p>
6	学力向上	<p>放課後学習等、学校によって取り組みは違うが、どれだけ成果が上がっているか疑問である。基本的には個人の日々の積み重ねと努力が重要であることを感じる。</p>
11	高等学校振興	<p>高遠高校に対する遠距離通学費補助事業が行われているが、市内には通学事情の悪い地域があるので、そういった地域に対する補助事業についても検討を願う。</p>
14 ～ 18	不登校対策の推進 虐待防止対策の推進 いじめ防止対策の推進	<p>不登校やその他の状況を見ていく中で、家庭的な問題が浮上してくることも多いと感じる。学校側では、子どもに対する指導はできても、家庭に関わる問題は大変困難であり、指導の限界を感じることも多い。学種の連携を含めて行政としてより一層の取組を期待する。</p>
19	少年補導委員会・少年補導センター	<p>近年、暴力的行為や青少年の不良化などの非行行為で補導される事例は減少してきていると感じている。一方、学校現場でのICT化も進む中で、SNSによる誹謗中傷やいじめに繋がる事例が増え、特に中学生が深刻と聞く。何らかの対策に早期に取り組むべきと考える。</p>
27	学校人権同和教育	<p>道徳の時間にいじめについて取り上げるとき、学校によってはアンケートを行うこともあるようだ。その場合、正直に書ける子と書けない子がいて見抜けない場合がある。子ども一人一人の性格の違いに寄り添ったいじめ対策と対応を願う。</p>
29	公民館建設（施設管理）	<p>西春近公民館の建設計画において、伊那西高等学校の生徒の要望なども聴取してもらい感謝する。今後、竣工にあたって学校からも何かしらの取組ができることと考えている。</p>
39	民俗文化の伝承	<p>学校の授業参観で「井月さん」の発表があり、熱心に研究し、絵をかき歌をうたい大変感動した。古き時代の伝統を守り、子どもらに受け継ぐことは大切であり、気持ちが和らぐと改めて感じる。</p>

	市誌編さんについて	伊那市誌編さんにあたって、専門の委員等だけで作るのではなく、市内の中高生を何らかの形で加え、一緒になって勉強しながら組み立てることはできないかと考える。資料採取や年配者への聞き取り調査に同伴することで、地域を知り地域への愛着が湧き、自分が関わった市誌を改めて読む機会にもつながるなど、大変有意義な機会と考える。
--	-----------	---

令和2年度

伊那市教育委員会評価委員

伊那西高等学校長

出野 憲司

中部PTA連合会会長

飯島 公人

伊那市女性人材バンク

赤羽智恵美